

CTK-4000 CTK-5000

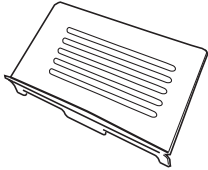
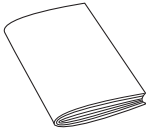
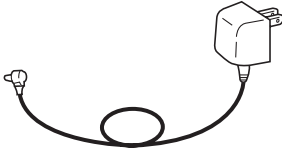
取扱説明書 (保証書別添)

お読みになったあとも保証書とともに大切に保管してください。

安全上のご注意

本機をお使いになる前に、必ず別紙の「安全上のご注意」をお読みください。

付属品一覧

 <p>譜面立て</p>	 <p>楽譜集(2冊)</p>	 <p>ACアダプター: AD-5JL(CTK-4000) AD-12MLA(CTK-5000)</p>
<p>リーフ類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カシオ電子楽器保証書 ・安全上のご注意 ・お客様ご相談窓口 ・Appendix ・その他 		

- ・欠品、破損、紛失等の場合は、ご購入された販売店にお問合わせください。(ACアダプター AD-5JLは別売品で購入可能)
- ・付属品のデザインと内容は、予告なく変更されることがあります。

別売品のご案内

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
サスティンペダル	SP-3
	SP-20
ACアダプター	AD-5JL (CTK-4000)
ソフトケース	SC-550B

商品名	品番
スタンド	CS-4B
	CS-7W
イス	CB-5
	CB-9
	CB-20

- ・カシオ電子楽器取扱店で購入可能。
- ・店頭のカシオ電子キーボードカタログでより詳しい情報がご覧になれます。

<http://casio.jp/emi/catalogue>

本書の内容について

- 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万一ご不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- 本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

■ JIS C 61000-3-2適合品
本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。



このマークはEU諸国におけるリサイクル規制のマークです。

ご使用上の注意

別紙「安全上のご注意」と併せてお読みください

■ 設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所(これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります)。

■ 本機のお手入れについて

- お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
- 鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

■ 付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

ご使用上の注意.....	1
全体ガイド.....	4
数字、[-]、[+] ボタン(17 テンキー)の 使いかた.....	6
機能ボタン(23)について.....	6
演奏の準備.....	7
譜面立ての準備.....	7
電源の準備.....	7
演奏してみよう.....	8
電源を入れて演奏してみよう.....	8
ヘッドホンを使う.....	8
鍵盤を押す強弱で音量を変える (タッチレスポンス).....	9
液晶画面のコントラストを調整する.....	9
メトロノームを使ってみよう.....	10
音を変えて弾いてみよう.....	11
いろいろな楽器の音色で 弾いてみよう.....	11
2つの音色を重ねてみよう(レイヤー).....	12
鍵盤の高音域と低音域で音色を 変えてみよう(スプリット).....	12
響くような音で弾いてみよう(リバーブ).....	13
音に厚みをつけてみよう(コーラス).....	13
ペダルを使ってみよう.....	14
音の高さを変えて弾いてみよう (トランスポーズ、チューニング、 オクターブシフト).....	14
ピッチベンドホイールで音の高さを 変えて演奏しよう(CTK-5000のみ).....	15

好きな音を記録して弾いて みよう(サンプリング)..... 16

接続と準備.....	16
音を記録してメロディーを弾いてみよう (メロディーサンプリング).....	16
音を記録してドラムセットに組み込んで みよう(ドラムサンプリング).....	18
サンプリング機能を使いこなそう.....	20

ソング(内蔵曲)を鳴らそう... 22

デモを聴いてみよう.....	22
ソングを1曲ずつ聴いてみよう.....	22
ソングを増やす(ユーザーソング).....	24

ソング(内蔵曲)で曲を マスターしよう..... 25

フレーズについて.....	25
ステップアップレッスンの流れ.....	25
練習するソング、フレーズ、パートを選ぶ.....	26
レッスン1~3をはじめよう.....	27
レッスン中のさまざまな設定.....	28
自動的にレッスンを進めてみよう -自動ステップアップレッスン-	30

鍵盤ゲーム (ミュージックチャレンジ)... 31

自動伴奏をバックに 演奏しよう..... 32

リズムパートだけを鳴らそう.....	32
すべてのパートを鳴らしてみよう.....	33
自動伴奏を使いこなそう.....	35
お勧めの音色やテンポにする (ワンタッチプリセット).....	36
メロディーの音に和音をつけてみよう (オートハーモナイズ).....	37

自動伴奏を編集してみよう...38**設定を登録しよう
(レジストレーション).....41**

- 登録する 42
- 登録したデータを呼び出す 42

**演奏を録音してみよう
(レコーダー).....43**

- 演奏を録音・再生する 43
- パートごとに重ねて録音する・
選んで再生する 44
- 2曲以上録音する・選んで再生する 45
- ソング(内蔵曲)と一緒に演奏して
録音する 45
- 録音したデータを外部機器に保存する 46

**本機をさらに
使いこなすには.....47**

- 鍵盤の音律(スケール)を変えてみる 47
- ミュージックプリセット 50
- アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす
(アルペジエーター) 50
- ユーザーソングのデータを消去する 51
- 本機に記録されているデータを
まとめて消去する 52

**メモリーカードを使用する
(CTK-5000のみ).....53**

- SDメモリーカードとカードスロットの
取り扱い上のご注意 53
- SDメモリーカードを入れる／取り出す 54
- SDメモリーカードをフォーマットする 54
- 本機のデータをSDメモリーカードに
保存する 55
- SDメモリーカードのデータを
本機に読み込む 56
- SDメモリーカードのデータを消去する 57
- SDメモリーカードのソングデータを
再生する 58
- SDメモリーカードの
エラー表示について 58

他の外部機器と接続する.....59

- パソコンとの接続 59
- 各種MIDI設定 60
- 本機のデータをパソコンに保存する/
本機のソングや自動伴奏を増やす 61
- オーディオ機器とつなぐ 62

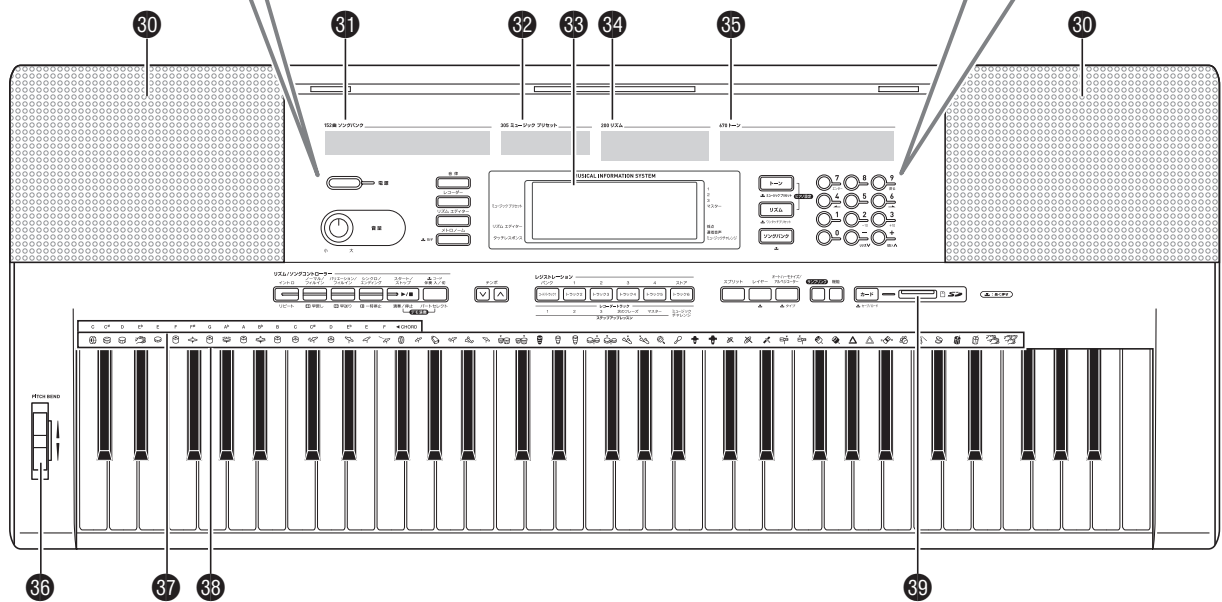
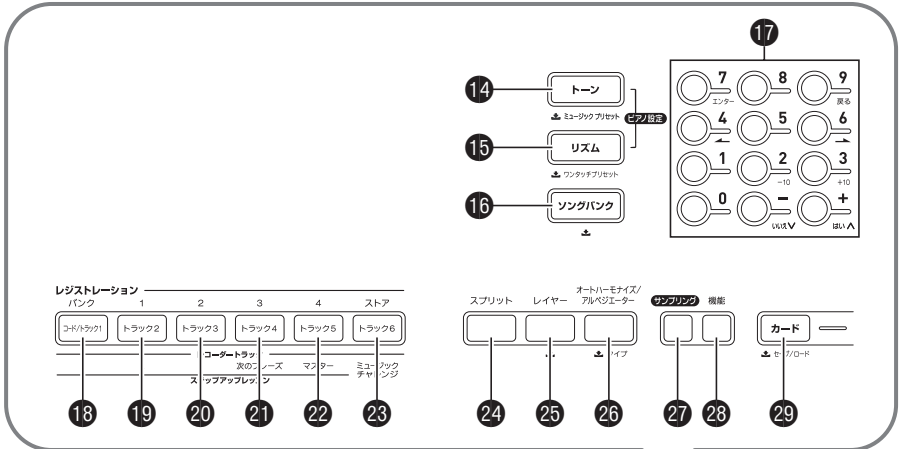
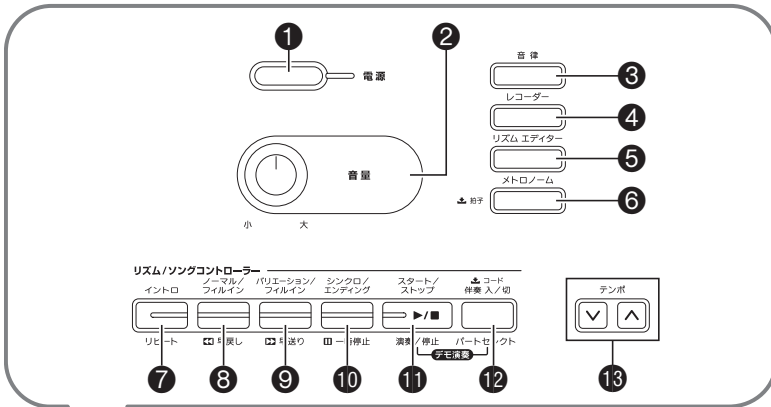
資料.....64

- 困ったときは 64
- 製品仕様 66
- エラーメッセージ一覧 68
- ソングリスト 69
- コード例一覧 70
- 保証・アフターサービスについて 71

**MIDIインプリメンテーション・
チャート**

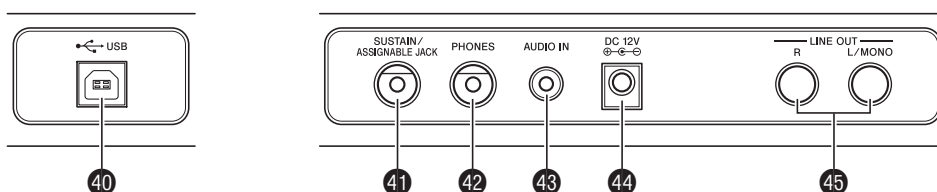
全体ガイド

- 本書に記載されているイラストは、CTK-5000です。
- 本書の操作説明では、ボタンやつまみなどを番号で表現します。



• マークの数字は参照ページです。

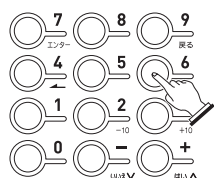
- ① 電源ボタン 8, 21, 40, 42, 44, 49, 62
- ② 音量つまみ 8
- ③ 音律ボタン 47, 48, 49
- ④ レコーダーボタン 43, 44, 45, 46
- ⑤ リズム エディターボタン 38, 39
- ⑥ メトロノーム、拍子ボタン 10
- ⑦ イントロ、リピートボタン 23, 28, 35, 38
- ⑧ ノーマル/フィルイン、早戻しボタン 23, 26, 32, 35, 38
- ⑨ バリエーション/フィルイン、早送りボタン 23, 26, 35, 38
- ⑩ シンクロ/エンディング、一時停止ボタン 23, 35, 36, 38
- ⑪ スタート/ストップ、演奏/停止ボタン 22, 23, 24, 27, 28, 32, 43, 44, 45, 46, 58
- ⑫ 伴奏 入/切、コード、パートセレクトボタン 22, 24, 26, 28, 33, 37, 38, 39, 46, 60
- ⑬ テンポボタン 10, 24, 36
- ⑭ トーン、ミュージック プリセットボタン 8, 11, 16, 18, 19, 20, 21, 50
- ⑮ リズム、ワンタッチプリセットボタン 11, 17, 18, 20, 32, 36, 39, 42, 43, 45, 47, 49
- ⑯ ソングバンクボタン 22, 24, 26, 31, 45
- ⑰ 数字ボタン、-/+ボタン 6
- ⑱ バンク、コード/トラック1、レッスン1ボタン 17, 27, 41, 42
- ⑲ エリア1、トラック2、レッスン2ボタン 17, 27, 41, 42, 44, 49
- ⑳ エリア2、トラック3、レッスン3ボタン 17, 28, 41, 42, 44, 49
- ㉑ エリア3、トラック4、次のフレーズボタン 17, 26, 41, 42, 44, 49
- ㉒ エリア4、トラック5、マスターボタン 17, 30, 41, 42, 44, 49
- ㉓ ストア、トラック6、ミュージックチャレンジボタン 17, 31, 42, 44, 49
- ㉔ スプリットボタン 12, 13
- ㉕ レイヤーボタン 12, 15
- ㉖ オートハーモナイズ/アルペジエーター、タイプボタン 37, 50, 51
- ㉗ サンプリングボタン 16, 17, 18, 19
- ㉘ 機能ボタン 6
- ㉙ カード、セーブ/ロードボタン (CTK-5000のみ) 54, 55, 56, 57, 58
- ⑳ スピーカー
- ㉑ ソングバンクリスト
- ㉒ ミュージック プリセットリスト
- ㉓ 液晶画面
- ㉔ リズムリスト
- ㉕ トーンリスト
- ㉖ ピッチベンドホイール (CTK-5000のみ) 15
- ㉗ コードルート音名 33
- ㉘ 打楽器イラスト 11
- ㉙ SDメモリーカードスロット (CTK-5000のみ) 54



- ④0 USBポート 59
- ④1 サスティン/アサインابل端子 14
- ④2 ヘッドホン/アウトプット端子 (CTK-4000)
ヘッドホン端子 (CTK-5000) 8, 62
- ④3 オーディオ入力端子 16, 63
- ④4 電源端子 (DC 9V) (CTK-4000)
電源端子 (DC 12V) (CTK-5000) 7
- ④5 ライン出力端子 (R、L/MONO)
(CTK-5000のみ) 62

数字、[-]、[+]ボタン(17 テンキー)の使いかた

液晶画面の左上に表示されている番号などを変更します。



番号など



数字ボタン

数字ボタンを押すと、選びたい番号や数値を入力できます。

- 入力するときは、表示されている数値と同じ桁数を入力します
例：音色番号001を選ぶ場合は“0”→“0”→“1”と入力する。

メモ

負(マイナス)の値は、数字ボタンでは入力できません。
[-]または[+]ボタンで入力してください。

[-]、[+]ボタン

[-]または[+]を押すと、表示されている番号や数値を1つずつ増減させます。

- ボタンを押し続けると番号や数値が連続して増減します。
- 両方のボタンを同時に押すと初期値、またはお好みの数値になります。

機能ボタン(28)について

この楽器では音の響き方を調整したり、保存したデータを消去するなどのさまざまな機能が、機能ボタン(28)に搭載されています。

機能を選ぶには

- 28を押します。
液晶画面の左上に、機能名が表示されます。
 - もう一度28を押すと、元の表示に戻ります。

- 17(テンキー)の[4](←)または[6](→)を押して、以下の表の1~12のなかから機能を選びます。
 - 8~12を選んだ場合は、さらに17(テンキー)の[7](エンター)を押して、[4](←)または[6](→)でサブ機能を選びます。[9](戻る)を押すと、[7](エンター)を押す前の画面に戻ります。
 - 選んだ機能の詳細については、以下の表に書かれた参照ページをご参照ください。
 - 機能を選んだ後、17(テンキー)の[2](-10)または[3](+10)を押して、表示されている番号や数値を10ずつ増やしたり減らしたりできます(以下の表の“12データの消去”を除く)。

	機能名	表示	参照ページ
1	トランスポーズ	Trans.	14
2	自動伴奏の音量	AcompVol	36
3	ソングの音量	Song Vol	24
4	タッチレスポンス	Touch	9
5	チューニング	Tune	14
6	リバーブ	Reverb	13
7	コーラス	Chorus	13
8	サンプリング	SAMPLING	
	サンプリング自動スタート	AutoStrt	20
	サンプリング自動ストップ	AutoStop	20
	サンプリング音色プロテクト	(Protect)	21
9	ステップアップレッスン	LESSON	
	運指音声	Speak	28
	弾くべき音のガイド	NoteGuid	29
	採点	Scoring	29
	フレーズの長さ	PhraseLn	29
10	その他の設定	OTHER	
	アルペジエーターホールド	ArpegHld	51
	ペダルの効果	Jack	14
	ピッチバンドレンジ(CTK-5000のみ)	Bend Rng	15
	自動伴奏スケール	AcompScl	49
	液晶画面のコントラスト	Contrast	9
11	MIDI設定	MIDI	
	キーボードチャンネル	Keybd Ch	60
	ナビゲートチャンネル	Navi. Ch	60
	ローカルコントロール	Local	61
	ア कंपアウト	AcompOut	61
12	データの消去	DELETE	
	サンプリング音色の消去	(tone name)	21
	ユーザーリズムの消去	(rhythm name)	40
	ユーザーソングの消去	(song name)	51
	すべてのデータの消去	All Data	52

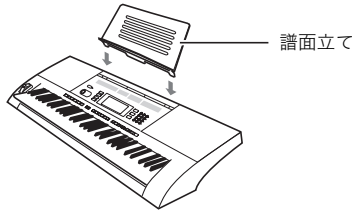
重要

- 音色などの各種設定は、本機の電源を入れなおすと初期値に戻ります。



演奏の準備

譜面立ての準備



譜面立て

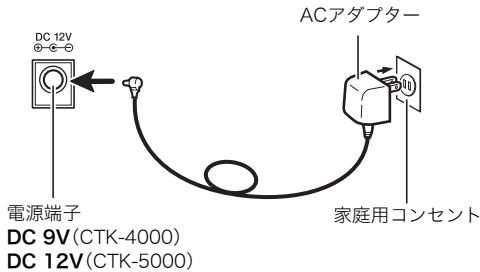
電源の準備

この楽器は電源としてACアダプターか乾電池をご使用できますが、基本的にはACアダプターをご使用されることをお勧めします。

ACアダプターを使う場合

家庭用コンセントで使うときは、本機指定のACアダプターを接続してください。

ACアダプターの型式: AD-5JL(CTK-4000)
AD-12MLA(CTK-5000)



電源端子
DC 9V(CTK-4000)
DC 12V(CTK-5000)

重要

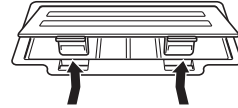
- ACアダプターを差したり抜いたりする前に、必ず本機の電源を切ってください。

乾電池を使う場合

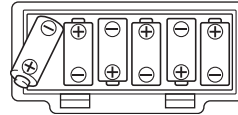
重要

- 乾電池を入れる前に、必ず本機の電源を切ってください。
- 乾電池は市販の単1形乾電池をご使用ください(オキシライド乾電池などのニッケル系一次電池は使用しないでください)。

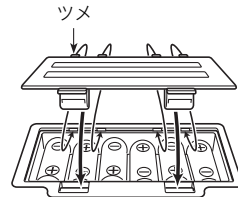
1. 本機の裏側にある電池ボタンをはずします。



2. 市販の単1形乾電池、6本を電池ケースに入れます。イラストに合わせて⊕⊖の向きを間違えないように入れてください。

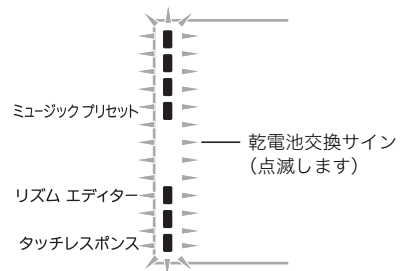


3. 電池ケースの穴にツメを差し込み、電池ケースのフタを閉じます。

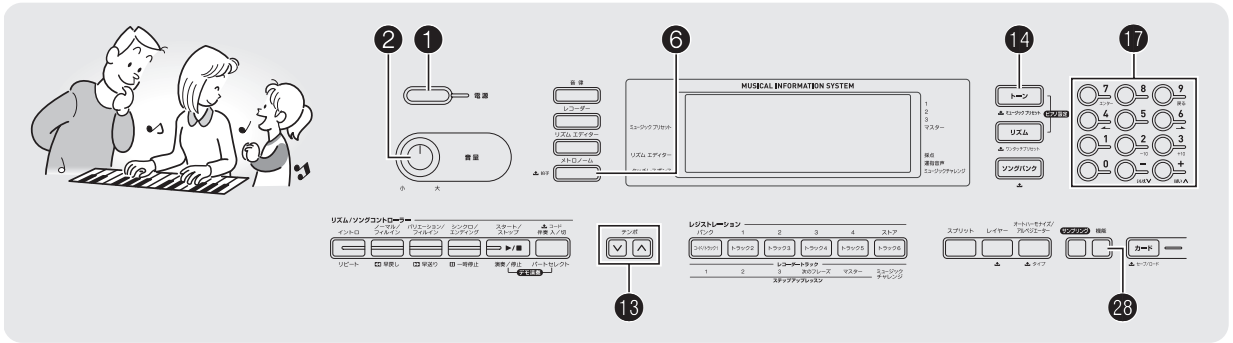


■ 乾電池交換時期のお知らせ表示

乾電池が消耗してくると以下の表示が点滅しますので、新しい乾電池と交換してください。

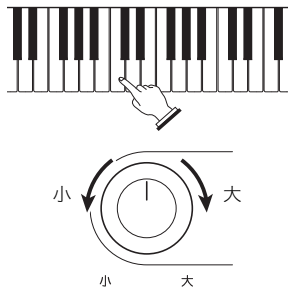


演奏してみよう



電源を入れて演奏してみよう

1. ①を押します。
電源が入ります。
2. 鍵盤を弾いてみましょう。また②で音量の調整をしましょう。



重要

- 本機の電源を切ると、音色やリズム番号などの各種設定が初期化されます(サンプリング音色のプロテクト設定を除く)。

オートパワーオフ機能(乾電池使用時のみ)

本機を乾電池で使用しているとき、6分間何も操作しないと無駄な消費電力を防ぐため自動的に電源が切れます(ACアダプター使用時は、この機能は作動しません)。

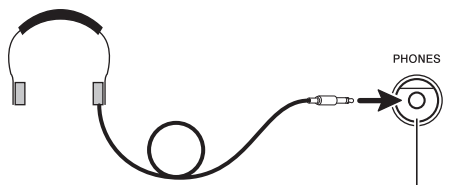
■オートパワーオフ機能をキャンセルして使う

コンサートなどで演奏の合間に電源が切れないよう、オートパワーオフ機能をキャンセルして使用できます。

1. ⑭を押しながら電源を入れます。
オートパワーオフ機能がキャンセルされて電源が入ります。

ヘッドホンを使う

- ヘッドホンを使用すると内蔵スピーカーから音が出なくなり、夜間でも周囲に気兼ねなく演奏が楽しめます。
- 本機の音量を絞ってから、ヘッドホンを接続してください。



ヘッドホン/アウトプット端子(CTK-4000)
ヘッドホン端子(CTK-5000)

メモ

- ヘッドホンは本製品に付属されておりません。
- 別売または市販のヘッドホンがご使用になれます。

重要

- 大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害になる恐れがあります。
- ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、変換プラグだけを本機に残さないようご注意ください。

鍵盤を押す強弱で音量を変える (タッチレスポンス)

タッチレスポンス機能とは、鍵盤を押す強さ(速さ)で音量を変化させる機能です。タッチレスポンス機能を使うと本物のピアノのように鍵盤を押す強さ(速さ)で音量が変化し、演奏の表現が豊かになります。

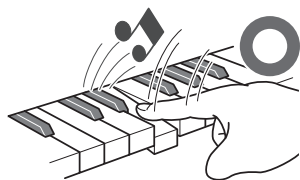
鍵盤楽器の音の強弱について

■音の強弱は鍵盤を押す速さで決まります

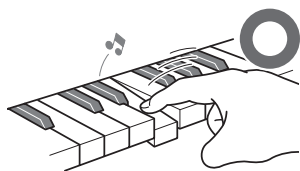
一般的に、ピアノは鍵盤を強く押すと音が大きく出ると考えられていますが、実は音の強弱は鍵盤を押す速さで決まります。つまり、鍵盤をすばやく押すと大きな音になり、ゆっくり押すと小さな音になります。このことを意識して演奏すると、指先に必要以上の力を加えることなく音量をコントロールできます。

■この楽器はピアノと同じような感覚で演奏できます

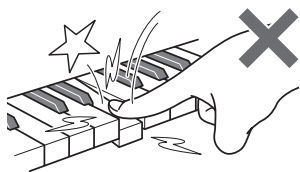
この楽器はピアノの鍵盤を押したときに近い感覚で演奏できるように、鍵盤を押す速さで音量に変化をつけることができます。



すばやく押すと大きな音
が出ます



ゆっくり押すと小さな音
が出ます



強く押しすぎないように
しましょう

タッチレスポンスの感度を変える

鍵盤を押した速さにより変化する音量の大きさを変えてみましょう。自分の演奏スタイルに合わせた設定で楽しめます。

1. **28**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Touch”と表示させます(6ページ)。



2. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、タッチレスポンスの感度を下記の3種類から選びます。

オフ(oFF)	タッチレスポンスを解除します。鍵盤を押す速度が変化しても音量は一定のままです。
タイプ1 (1)	標準的な設定です。
タイプ2 (2)	タイプ1より大きな音を出しやすい設定になります。

リズム エディター

タッチレスポンス オフの場合は消灯します

液晶画面のコントラストを調整する

1. **28**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“OTHER”と表示させます(6ページ)。



点滅します

2. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。

3. **17** (テンキー) の [4] (←) または [6] (→) を使って液晶画面に “Contrast” と表示させます。



4. **17** (テンキー) の [-] または [+] を押して、コントラストを調整します。
- コントラストの設定範囲は 01 ~ 17 です。

メトロノームを使ってみよう

メトロノームを使うと一定の間隔で音を刻みますので、演奏や練習のときにテンポを正しく保つことができます。自分にあったテンポで練習しましょう。

スタート/ストップ

1. **6** を押します。
メトロノームがスタートします。

音にあわせて移動します



2. もう1回 **6** を押すと、メトロノームが止まります。

拍子を変える

曲の拍子に合わせて1拍目に「チーン」と鳴らし、それ以外の拍では「カチ」と鳴らすことができます。

- 拍子は、0、2、3、4、5、6拍子から選べます。
- ソング(内蔵曲)の演奏中は、その曲の拍子になります。

1. **6** をしばらく押し続けます。
液晶表示が拍子を変更する表示になります。
- しばらく何も操作しないと、元の表示に戻ります。



2. **17** (テンキー) を押して、拍子の数を入力します。
- 0拍子を選ぶと「チーン」と鳴りません。拍子を気にすることなく練習したいときに使います。

テンポを変える

自分の弾きたいテンポとメトロノームのテンポをあわせませす。

1. **13** を押します。
- **V** を押すとテンポが遅くなり、**^** を押すとテンポが速くなります。押し続けると連続して変えられます。
 - **V^** を一緒に押すと、そのときに選ばれているソングやリズムの初期値に戻ります。
 - **13** を押すと画面のテンポ数表示が点滅をはじめます。
 - 点滅中は **17** (テンキー) でもテンポ数を変えることができます。
例: テンポ89を入力するときは “0” → “8” → “9” と最初に0を入力します。
 - しばらく何も操作しないと、テンポ数の点滅が終了して点灯に戻ります。



メトロノームの音量を変える

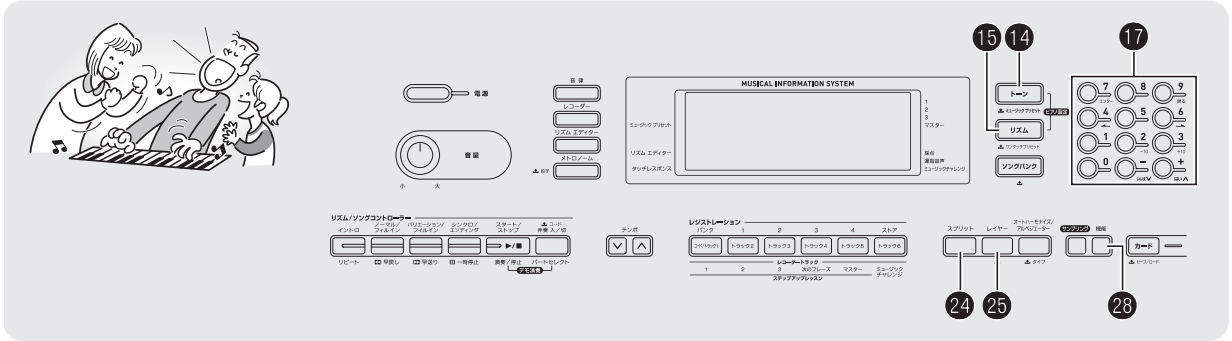
メトロノームの音量を変更するには、自動伴奏の音量やソング(内蔵曲)の音量の設定を変えます。

- 自動伴奏の音量変更は、36ページをご参照ください。
- ソングの音量変更は、24ページをご参照ください。

メモ

- 自動伴奏や自動演奏曲と、メトロノームとの音量バランスは変更できません。

音を変えて弾いてみよう



いろいろな楽器の音色で弾いてみよう

この楽器はバイオリン、フルート、オーケストラの楽器など、さまざまな楽器の音色で演奏ができます。同じ曲でも楽器の種類を替えて弾けば、さらに多彩な演奏が楽しめます。

演奏する楽器を決める

1. ⑭を押します。



2. ⑰(テンキー)を押して、音色番号を入力します。
液晶画面に番号と楽器の名前が表示されますので、好きな楽器を選びます。

メモ

- 音色の一覧は別紙「Appendix」をご覧ください。
- ⑭を押してから数字ボタンを使って直接音色番号を入力できます。音色番号は3桁で指定してください。
例: 001なら、0→0→1と入力します。
- ドラムセットの音色が選ばれていると、鍵盤ごとにさまざまな打楽器が鳴ります。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。
選んだ楽器の音色が出ます。



ピアノの音色で弾く(ピアノセッティング)

1. ⑭と⑮を同時に押します。
グランドピアノの音色になります。

設定される内容

音色番号	: "001"
リバーブ	: "06"
トランスポーズ	: 00
タッチレスポンス	: オフのとき: 初期値(タイプ1) オンのとき: 変更なし
ペダルの効果	: サスティン
リズム番号	: "161" (CTK-4000)、 "181" (CTK-5000)
自動伴奏	: リズムパートのみ
ローカルコントロール	: オン
ドラムアサイン	: オフ
スプリット	: オフ
レイヤー	: オフ
コーラス	: オフ
オクターブシフト(アッパー)	: 0
オートハーモナイズ	: オフ
アルペジエーター	: オフ
スケール	: 平均律

2つの音色を重ねてみよう (レイヤー)

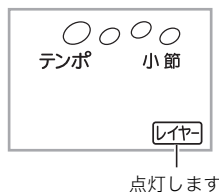
2つの音色を重ねて音を出すことができます。2種類のピアノの音を重ねて新しいピアノの音をつくったり、ピアノとストリングスの音をミックスするなど、多彩な音で演奏ができます。

1. 2つの音色うち一方の音色を選びます。

- ④を押してから、⑰(テンキー)で音色番号を入力します。
例: 音色026 “ELEC.PIANO 1” (CTK-5000の場合)を選ぶ。



2. ⑳を押します。



3. ⑰(テンキー)を押して、もう一方の音色番号を入力します。

- 例: 音色212 “STRINGS” (CTK-5000の場合)を選ぶ。



4. 鍵盤を弾いてみましょう。

選んだ2つの音色が重なって音が出ます。

5. もう一度㉑を押すと、1音色だけが出る設定に戻ります。

- ㉑を押すたびに、1音色が出る設定と2音色が出る設定が切り替わります。



鍵盤の高音域と低音域で音色を変えてみよう(スプリット)

鍵盤を右手側と左手側に分けて、それぞれを違う音色で鳴らすことができます。左手をハーブシーコード、右手をフルートにして1人でアンサンブル演奏をするなど、さまざまな演奏ができます。

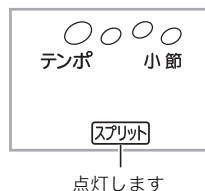
2つの音色を決める

1. 右側の鍵盤の音色を選びます(11ページ)。

- ④を押してから、⑰(テンキー)で音色番号を入力します。
例: 音色335 “FLUTE 1” (CTK-5000の場合)を選ぶ。



2. ㉒を押します。



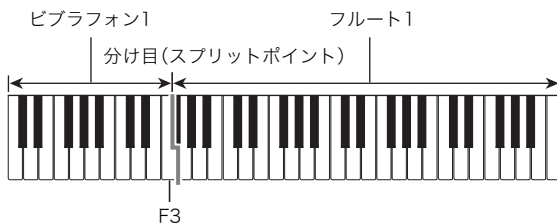
3. ⑰(テンキー)を押して、左側の鍵盤の音色番号を入力します。

- 例: 音色056 “VIBRAPHONE 1” (CTK-5000の場合)を選ぶ。



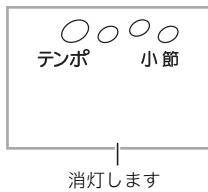
4. 鍵盤を弾いてみましょう。

左右の鍵盤で選んだそれぞれの音が出ます。



5. もう一度 24 を押すと、1音色だけ出る設定に戻ります。

- 24 を押すごとに、1音色が出る設定と2音色が出る設定を切り替えます。



メモ

- レイヤーをオンにしているときにスプリットをオンに設定すると、右側の鍵盤だけがレイヤーの状態で演奏できるようになります。

音色の分け目を変える(スプリットポイント)

1. 24 を押しながら、音色の分け目の鍵盤を押します。押した鍵盤が右側鍵盤の一番低い音の出る鍵盤になります。

例：中央のド(C4鍵)を指定した場合



響くような音で弾いてみよう (リバーブ)

リバーブを使うと音に残響音を加えることができます。この楽器では残響音の長さを変えることができますので、一味違った演奏をしてみましょう。

1. 23 を押して、 17 (テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Reverb”と表示させます(6ページ)。



2. 17 (テンキー)の[-]または[+]を押して、残響音の長さを調整します。リバーブのタイプは下記の表のとおりです。

オフ(off)	リバーブ効果がかかりません。
1~10	数値が大きくなるほど残響が長くなります。

オフのときは消灯します



音に厚みをつけてみよう(コーラス)

コーラスとは音に厚みや広がりを加える機能のことです。1人で弾いても複数の楽器が鳴っているような効果が出せます。

1. 23 を押して、 17 (テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Chorus”と表示させます(6ページ)。



2. 17 (テンキー)の[-]または[+]を押して、コーラスのタイプを選びます。

コーラスのタイプは1~5、またはオフを選びます。

オフのときは消灯します



- コーラス効果は音色によって差があります。

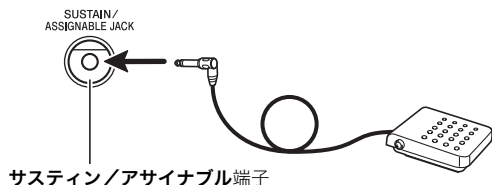
ペダルを使ってみよう

ペダルで演奏にさまざまな変化がつけられます。

- ペダルは本製品に付属されておりません。お買い求めの販売店で別途ご購入ください。

ペダルの接続

ペダル(別売品)を接続してください。



ペダルの効果を選ぶ

1. **23**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“OTHER”と表示させます(6ページ)。



2. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
3. **17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Jack”と表示させます。



4. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、ペダル効果の種類を選びます。
 - ペダル効果の種類は下記の表のとおりです。

サスティン (SUS)	ペダルを踏んでいる間は弾いた音の余韻が長くなります。オルガンのような音色にすると、ペダルを踏んでいる間ずっと音が鳴り続けます。
ソステヌート (SoS)	鍵盤を押してからその鍵盤を離す前にペダルを踏むと、その音にだけサスティンと同じ効果がかかります。
ソフト (SFt)	ペダルを踏んでいる間に弾いた音を若干小さくします。
リズム (rHy)	自動伴奏やソングの開始・停止を行います。

音の高さを変えて弾いてみよう (トランスポーズ、チューニング、 オクターブシフト)

半音単位で変える(トランスポーズ)

トランスポーズ機能とは、音の高さを半音単位で全体的に上げたり下げたりする機能です。同じ鍵盤を弾いても、実際に出る音の調(キー)を歌う人の声の高さに合わせて移調して演奏することができます。

- トランスポーズの設定範囲は上下1オクターブ(-12から+12半音まで)です。

1. **23**を押します。



2. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、移調するキーを決めます。

音の高さを微調整する(チューニング)

チューニング機能とは、音の高さを全体的に少しだけずらす機能です。他の楽器やCDの演奏と本機の音程が合わないときに微調整できます。

- チューニングの設定範囲は-99から+99セントです。
- CDの演奏によっては、楽器のチューニングを微妙に変えて演奏されている場合もあります。

1. **23**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Tune”と表示させます(6ページ)。



2. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、チューニングを微調整します。

オクターブ単位で変える(オクターブシフト)

オクターブシフトとは鍵盤の音の高さを、オクターブ単位で上げたり下げたりできる機能です。設定範囲は上下2オクターブです。

• スプリット機能(12ページ)を使って演奏するときに、左右の鍵盤の音を適切な高さに調整できます。

1. 下記の液晶画面になるまで、**25**を押し続けます。

スプリット機能を使うときは、**25**を押す前にスプリットをオンしておきます。

• しばらく何も操作をしないと、**25**を押す前の画面に戻ります。



2. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、オクターブ単位で高さを調整します。

- **スプリットオンのとき**: 右側の鍵盤が変わります。
- **スプリットオフのとき**: 全部の鍵盤が変わります。

3. **25**を押します。

• **スプリットオンのとき**:

以下の画面になりますので右側の鍵盤と同様に**17**(テンキー)を押して、左側の鍵盤のオクターブを調整します。

• **スプリットオフのとき**:

以下の画面になりますので、次の手順に進みます。



4. もう一度**25**を押します。

ピッチベンドホイールで音の高さを 変えて演奏しよう (CTK-5000のみ)

演奏中に音の高さを滑らかに上下することができます。サックスやエレキギターのチョーキング奏法のような効果を出して、演奏を盛り上げることができます。

演奏方法

1. 右手で鍵盤を押しながら、左手でピッチベンドホイールを上下に動かします。

ホイールを動かした量に応じて、音の高さが変わります。

- 電源を入れるときには、ホイールを動かさないようにしてください。



音の高さの変化量を変える (ピッチベンドレンジ)

ホイールを上限や下限まで動かしたときの、音の高さの変化量を、0~12半音(1オクターブ)の範囲内で変えられます。

1. **28**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“OTHER”と表示させます(6ページ)。



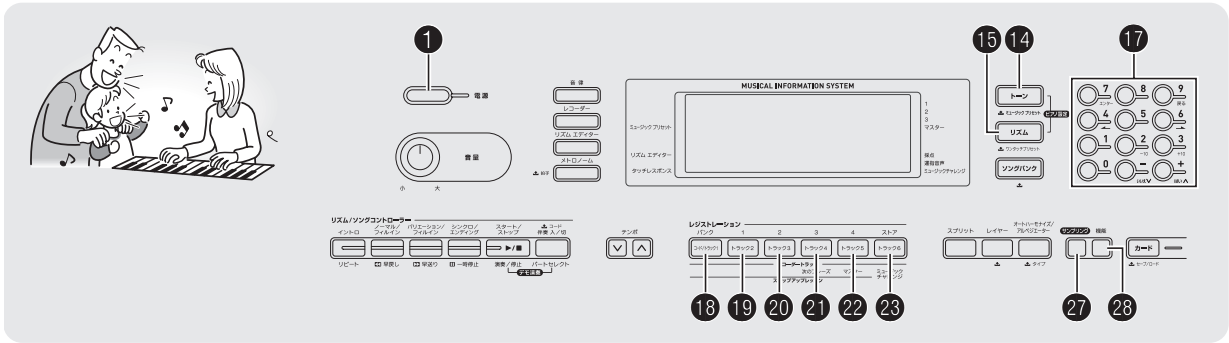
2. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。

3. **17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Bend Rng”と表示させます。



4. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、変化の量を変えます。

好きな音を記録して弾いてみよう(サンプリング)



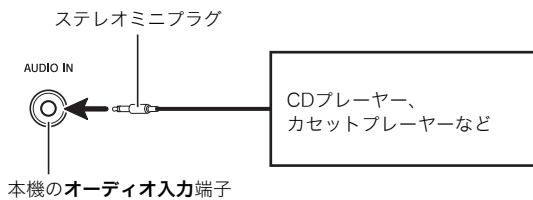
この楽器は携帯オーディオプレーヤーなどの外部機器から好きな音を記録して、鍵盤で演奏することができます。たとえば、犬の鳴き声を記録して演奏すれば、犬の鳴き声でメロディーを奏することもできます。また、音楽CDから音を記録して効果音として使うこともできます。サンプリング機能を使ってオリジナリティあふれたサウンドを作りましょう。

接続と準備

重要

- 接続する前に、本機と外部機器の電源を切ってください。

1. 外部機器を接続してください。



メモ

- 接続には市販の接続コードがご使用できます。片側がステレオミニプラグ、もう一方は外部機器の入力端子に接続できるものをご用意ください。

2. 外部機器と本機の音量を小さくしておきます。

3. 外部機器の電源を入れてから、本機の電源を入れます。

メモ

- サンプリング音はモノラルで記録されます。

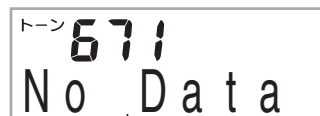
音を記録してメロディーを弾いてみよう(メロディーサンプリング)

記録した音を鍵盤で鳴らしてメロディー演奏ができます。

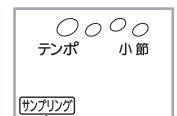
- 音色番号671～675番(CTK-4000の場合は571～575番)の各番号に1種類ずつ音を保存して、全部で5種類まで記録することができます。また、記録した後からでも音色番号を選ぶとその番号に記録されている音を呼び出すことができます。

音を記録する

- 14を押して、17(テンキー)で音色番号(CTK-5000: 671～675番)(CTK-4000: 571～575番)のなかで音を記録したい番号を選びます。



音が記録されていない場合



点灯します

- 上の操作の代わりに、27と14を同時に押して音色番号を選ぶこともできます。

2. 27を押します。

記録待機の状態になります。

液晶画面にサンプリング可能な時間(秒)が表示されてから、下記の表示に変わります。



点滅します

3. 外部機器から音を出します。
自動的に記録がはじまります。



4. 記録したい音が鳴り終わったら、**27**を押します。
27を離れた時点で記録を終了します。
• **27**を押さなくても、外部機器から本機に入力される音がなくなると自動的に記録を終了します。また、記録開始から10秒経過すると自動的に記録を終了します。

サンプルドトーン1



5. 鍵盤を弾いてみましょう。

メモ

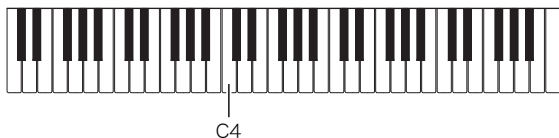
- 本機のメモリーの残り量が少なくなると、記録可能な時間が10秒よりも短くなったり、記録できなくなる場合があります。その場合には、すでに記録しているデータをいくつか消去してメモリーの残り量を増やすと、10秒間の記録ができるようになります(「記録した音を消去する」21ページ)。

重要

- 音を記録すると、その音色番号に以前記録されていたデータは消去されます。間違えてデータを消去しないようにするには、「記録した音を誤って消さないように保護する」(21ページ)をご参照ください。

■ 記録した音と同じ高さ(ピッチ)の音について

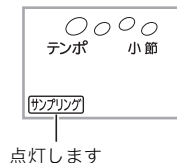
中央のド(C4)鍵盤で出る音が記録したままの音声です。C4を中心に上下の鍵盤を押すと記録したデータの音の高さを変えて音を出します。



記録した音を自動で繰り返し鳴らす

メロディーサンプリングで記録した音を繰り返し再生させて、それに合わせて演奏することができます。

- 18**を押します。
- 27**を押しながら、**28**を押します。
繰り返し再生の待機状態になります。



- 18**~**22**のなかで、再生したいメロディーサンプリング音色の番号に対応したボタンを押します。
繰り返し再生がはじまります。

再生したいサンプリング音色の番号		押すボタン
CTK-5000	CTK-4000	
671	571	18
672	572	19
673	573	20
674	574	21
675	575	22

- 同じボタンをもう一度押すと、再生を停止します。
- 28**を押すと手順2の前の状態に戻ります。

繰り返し再生の音量を変える

サンプリング音を繰り返し再生させるときの音量を調整することができます。

- 音量を変えたいサンプリング音色の番号に対応したボタン(**18**~**22**)を押します。
 - 繰り返し再生がはじまります。
- 同じボタンを押し続けながら、いずれかの鍵盤を押します。
 - 鍵盤を素早く押すほど音量が大きくなり、ゆっくり押すほど小さくなります。
- 適度な音量になったら、ボタンを離します。

記録した音にさまざまな効果をつける

サンプリングした音にさまざまな効果をつけて音を出します。

1. **14**を押して、**17**(テンキー)でメロディーサンプリング音色の番号(CTK-5000: 671~675番)(CTK-4000: 571~575番)のなかから、効果をつけたい音色の番号を選びます。

2. **14**を押して下記の表から効果のタイプを選びます。

14を押すごとに、以下のようにタイプが変わります。

タイプ名 (表示名)	効果の内容
Original (Orgnl)	効果はかかりません。
Loop 1 (Loop1)	サンプリングした音が繰り返し鳴ります。
Loop 2 (Loop2)	鍵盤を離した後に、音の余韻のピッチが上がります。
Loop 3 (Loop3)	鍵盤を離した後に、音の余韻のピッチが下がります。
Pitch 1 (Ptch1)	だんだんピッチが高くなっていきます。
Pitch 2 (Ptch2)	だんだんピッチが低くなっていきます。
Pitch 3 (Ptch3)	だんだんピッチが低くなっていきます。鍵盤を離すと音の余韻のピッチが上がります。
Tremolo (Trem1)	音量が大きくなったり小さくなったりを繰り返します。
Funny 1 (Funy1)	ビブラートがかかり、ゆれ幅がだんだん大きくなります。
Funny 2 (Funy2)	ピッチが上がったり下がったりを繰り返します。
Funny 3 (Funy3)	ビブラートがかかり、だんだんピッチが高くなっていきます。

- “Original”以外の10種類の効果を選んだときは、鍵盤を押している間、サンプリングした音が繰り返し鳴り続けます。
- 手順1では、繰り返し再生しているサンプリング音色(17ページ)と同じ音色番号は選ばないようにしてください。同じ番号を選んだ場合には、“Loop 1”の効果がかかります。

音を記録してドラムセットに組み込んでみよう(ドラムサンプリング)

ドラムセット音色の各鍵盤の音をサンプリングで記録した音に変えることができます。

- 音色番号の676~678番(CTK-4000: 576~578番)の各番号に、変更したドラムセット音色(サンプリングドラムセット音色)を1種類ずつ保存して、全部で3種類まで記録することができます。また、記録した後からでも音色番号を選ぶとその番号に記録されている音を呼び出すことができます。

1. **15**を押します。

15が点灯します。

2. **14**を押して、**17**(テンキー)で音色の番号(CTK-5000: 676~678番)(CTK-4000: 576~578番)のなかから音を記録したい番号を選びます。



- 上の操作の代わりに、**27**と**15**を同時に押して音色番号を選ぶこともできます。

3. **27**を押します。



4. 音を記録したい鍵盤を押します。

記録待機の状態になります。

液晶画面にサンプリング可能な時間(秒)が表示されてから、下記の表示に変わります。



5. 外部機器から音を出します。

自動的に記録をはじめます。



点滅します

6. 記録したい音が鳴り終わったら、**27**を押します。



使用しているメモリー量(単位: キロバイト)

メモリーの残り量

27を離した時点で記録を終了します。

- **27**を押さなくても、外部機器から本機に入力される音がなくなると自動的に記録を終了します。また、記録開始から10秒経過した場合にも自動的に記録を終了します。

7. 鍵盤を弾いてみましょう。

メモ

- 手順3~6を繰り返すと、1つのサンプリングドラムセット音色で鍵盤ごとに違う音を記録することができます(8種類まで)。
- メモリーの残り量が少なくなると、記録可能な時間が10秒よりも短くなったり、記録できなくなる場合があります。その場合には、すでに記録しているデータをいくつか消去してメモリーの残り量を増やすと、10秒間の記録ができるようになります(「記録した音を消去する」21ページ)。

重要

- 音を記録すると、その鍵盤に以前記録されていたデータは消去されます。間違えてデータを消去しないようにするには、「記録した音を誤って消さないように保護する」(21ページ)をご参照ください。

サンプリングドラムセット音色の音を編集する

サンプリングドラムセット音色の鍵盤に記録された音を、そのドラムセットの他の鍵盤にコピーしたり、音の高さ(ピッチ)を変更したりすることができます。

1. **14**を押して、**17**(テンキー)でサンプリングドラムセット音色番号(CTK-5000: 676~678番)(CTK-4000: 576~578番)のなかから編集したい音色の番号を選びます。

2. **27**を押します。

3. **28**を押します。



すばやく点滅します

編集ができる状態になります。

- この状態では以下の3種類の編集ができます。もう一度**28**を押すと編集の状態を終了して手順2の状態に戻ります。



音がすでに記録されている鍵盤が点灯します

■ 記録した音を他の鍵盤にコピーするには

サンプリング音が記録されている鍵盤を押しながら、その音をコピーしたい鍵盤を押します。

例: C4鍵に記録した音をD4鍵にコピーした場合



音をコピーされた鍵盤が点灯します

- すでにサンプリング音が記録されている鍵盤は、コピー先に指定できません。

■ 記録した音の高さを鍵盤ごとに変えるは

サンプリング音の高さを変えたい鍵盤を押しながら、**17**(テンキー)の[-]または[+]を押します。

- -64から+63半音の範囲で、半音単位で音の高さを変更できます。

■ 記録した音を鍵盤ごとに消去する

サンプリング音を消去したい鍵盤を押しながら、**16**を押すと画面に“DelSure?”と表示されますので、消去してよければ**17**(テンキー)の[+]を押します。キャンセルするには[-]を押します。

- 消去された鍵盤の音色は、その鍵盤のオリジナル音色に戻ります。

例: D4鍵の音を消去した場合



消灯します

サンプリングドラムセット音色で自動伴奏を鳴らす(ドラムアサイン)

自動伴奏のリズムパートの音色を、記録したサンプリングドラムセット音色に変えて鳴らすことができます。

1. ⑮を押して、⑰(テンキー)で自動伴奏のリズム番号を選びます。
 - ユーザーリズム(CTK-5000: 201~210番)
(CTK-4000: 181~190番)は選ばないでください。
これらのリズム番号の自動伴奏はサンプリングドラムセット音色で鳴らすことができません。
2. ⑭を押して、⑰(テンキー)で鳴らしたいサンプリングドラムセット音色の番号を選びます。
3. ⑭を押します。
手順1で選んだ自動伴奏のリズムパートが、手順2で選んだ音色で鳴るようになります。
 - もう一度⑭を押すと、その自動伴奏の本来の音色に戻ります。

メモ

- リズムパートのドラム音のうちいくつかは、サンプリングした音に変えることができない場合があります。

サンプリング機能を使いこなそう

記録を手動で開始する設定に変える

本機では音が入力されると自動的に記録が開始されますが、ボタンや鍵盤操作で記録を開始する設定に変更できます。鍵盤を弾いてからしばらくして音が出るようなデータを記録したいときなどは、この設定にします。

1. ⑳を押して、⑰(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“SAMPLING”と表示させます(6ページ)。



点滅します

2. ⑰(テンキー)の[7](エンター)を押します。



3. ⑰(テンキー)の[-]を押して、オフに設定します。
手動で記録をはじめられるようになります。
 - メロディーサンプリング(16ページ)では、手順2で㉑を押してから離すと同時に記録を開始します。
 - ドラムサンプリング(18ページ)では、手順4で鍵盤を押してから離すと同時に記録を開始します。

重要

- 上記の設定にするとボタンや鍵盤を押したときに記録が開始されず、離れたときに記録を開始します(ボタンや鍵盤を押し続けていると開始しません)。

入力音が消えても記録を続ける設定に変える

本機では入力音がなくなると自動的に記録が終わりますが、ボタンや鍵盤操作で記録を停止する設定に変更できます。記録する音の後に音のない部分を入れたい場合などは、この設定にします。

1. ㉑を押して、⑰(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“SAMPLING”と表示させます(6ページ)。
2. ⑰(テンキー)の[7](エンター)を押します。
3. ⑰(テンキー)の[6](→)を押します。



4. ⑰(テンキー)の[-]を押して、オフに設定します。
外部機器からの入力音がなくなっても、㉑や鍵盤を押して離すまでは記録を停止しないようになります。

重要

- 上記の設定にするとボタンや鍵盤を押したときに記録が停止されず、離れたときに記録を停止します(ボタンや鍵盤を押し続けていると停止しません)。

記録した音を消去する

記録したサンプリング音色の番号を指定して、その番号に記録されたデータをまとめて消去することができます。

1. **28**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“DELETE”と表示させます(6ページ)。



点滅します

2. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。



使用しているメモリー量(単位: キロバイト)

メモリーの残り量

3. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、消去したい音色の番号を選びます。
4. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。消去を確認する画面が表示されます。



5. **17**(テンキー)の[+](はい)を押してください。データが消去されます。消去をキャンセルする場合は[-](いいえ)または[9](戻る)を押してください。
 - 消去が終了すると画面に“Complete”が表示され、手順2の画面に戻ります。

重要

- サンプリングドラムセット音色の各鍵盤ごとのデータ消去の方法は、「サンプリングドラムセット音色の音を編集する」(19ページ)をご参照ください。

記録した音を誤って消さないように保護する

大切なデータを誤って消さないように、音色番号ごとにデータを保護することができます。

1. **14**を押して、**17**(テンキー)で保護したいサンプリング音色の番号を選びます。
2. **28**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“SAMPLING”と表示させます(6ページ)。
3. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
4. **17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Protect”と表示させます。



5. **17**(テンキー)の[+]を押して、オンに設定します。手順1で選んだ音色が保護されて消去できなくなります。保護された音色は以下のように表示されます。



保護されています

■ サンプリング音のデータを外部機器に保存するには

- SDメモリーカード(55ページ)(CTK-5000のみ)
- パソコン(61ページ)

■ サンプリング音のデータの保持について

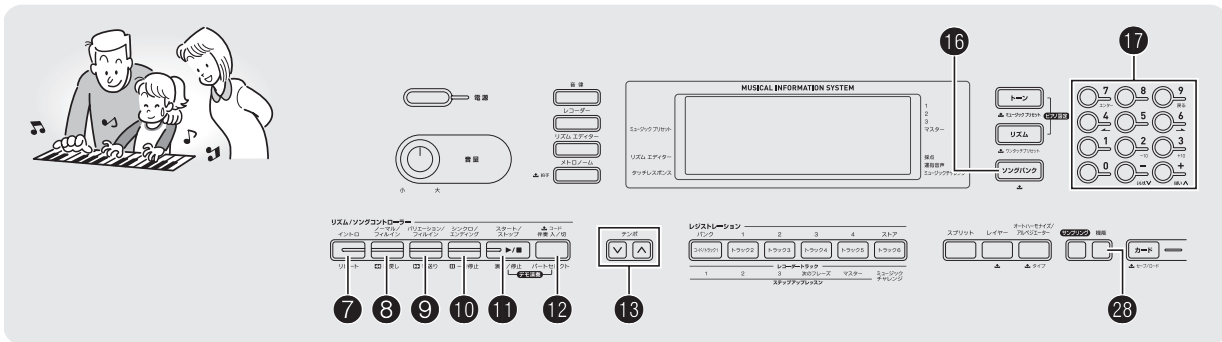
乾電池を入れずにACアダプターだけで使用している場合は、ACアダプターの接続が切れるとサンプリングで記録した内容が消去されます。

記録した内容を保つためには

- 乾電池とACアダプターの両方をご使用ください。
- ACアダプターを抜くときは、消耗していない乾電池(使用推奨期限内)を入れておいてください。
- 乾電池交換は、ACアダプターを接続した状態で行ってください。

なお、ACアダプターを差したり抜いたりするときや乾電池を交換するときは、**1**でいったん電源を切ってから行ってください。

ソング(内蔵曲)を鳴らそう



ソング(SONG)とはふつう「歌」のことを意味しますが、この楽器では曲データのことを指します。ソングを鳴らして聴いてみましょう。また、曲を聴くだけでなく曲に合わせて練習することもできます。

メモ

- この楽器にはソングを自動演奏させて鑑賞する機能だけでなく、自分で弾くための練習をサポートするレッスンシステム(25ページ)もあります。またSDメモリーカード(55ページ)(CTK-5000のみ)やパソコン(61ページ)でソングを増やすこともできます。

デモを聴いてみよう

ソング(内蔵曲)のなかで鑑賞用の曲を選んで再生します。

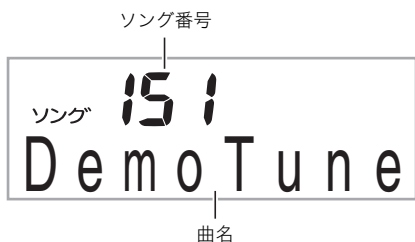
1. ⑪と⑫を同時に押します。

内蔵されているソングをデモ用の順番で再生を繰り返します。

- 曲目は69ページをご参照ください。
- デモは常に151番の曲からはじまります。



点滅します



曲名

2. デモ中に曲を変えるには、⑰(テンキー)の[-]または[+]を押して、曲番号を選びます(6ページ)。

選んだ曲番号のデモを開始します。

- ⑰(テンキー)の数字ボタンで曲番号は選べません。

3. デモを終了するには⑩を押します。

⑩を押すまでデモの全曲目を繰り返します。

ソングを1曲ずつ聴いてみよう

この楽器に内蔵されているソングの中から好きな曲を選んで聴くことや、外部機器から自分で増やした曲も聴くことができます。また、ソングに合わせて弾くこともできます。

スタート/ストップ

1. ⑯を押します。



曲名

2. ⑰(テンキー)を押して、好きなソングの番号を入力します。

- ソングの一覧は69ページをご参照ください。

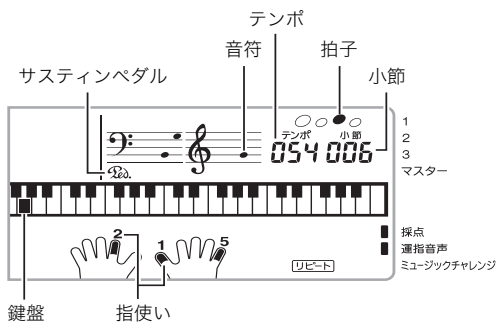
■「脳にキク」について

ソングの101~150番は、指のトレーニングのための曲集です。脳の活性化の効果も期待できます。

メモ

- 脳の活性化には個人差があります。
- 本機は医療機器ではありません。

3. **⑩**を押します。
ソング再生がスタートします。



4. もう一度**⑩**を押すと、ソング再生を途中で止めることができます。
ソングは**⑩**を押すまでリピート再生します。リピートを解除するには**⑦**を押します(液晶画面の“リピート”が消灯します)。

一時停止、早送り、早戻し

音楽プレーヤーのように、ソングの一時停止や早送り・早戻しができます。

■一時停止

1. **⑩**を押します。
ソング再生を一時停止します。
2. もう一度**⑩**を押すと、停止したところからソング再生を再開します。

■早送り

1. **⑨**を押します。
ソングを早送りします。**⑨**を1回押すと1小節先に進みます。押し続けると連続して小節を進めます。
 - 曲の停止中に**⑨**を押すと、レッスン機能のフレーズ送りを行います(26ページ)。

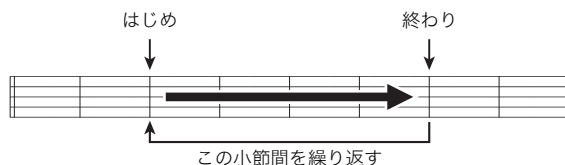


■早戻し

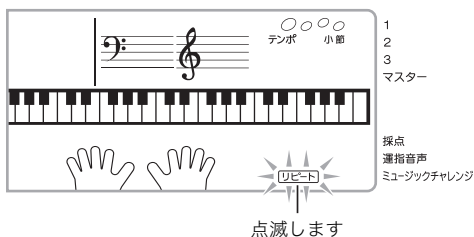
1. **⑧**を押します。
ソングを早戻しします。**⑧**を1回押すと1小節戻ります。押し続けると連続して小節を戻します。
 - 曲の停止中に**⑧**を押すと、レッスン機能のフレーズ戻しを行います(26ページ)。

曲の小節間を繰り返す(リピート)

上手に演奏できないフレーズを何度も繰り返し練習してみましょう。繰り返したい箇所の、はじめの小節と終わりの小節を指定します。



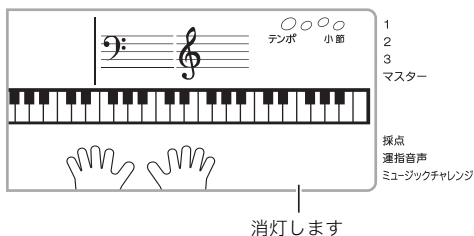
1. **⑦**を押して、曲のリピートを解除します。
液晶画面の“リピート”が消灯します。
2. ソングの再生中に、**⑦**を押してリピートするはじめの小節を指定します。
⑦を押したときの小節冒頭が指定されます。



3. リピートしたいところまで曲が進んだら、もう一度**⑦**を押して終わりの小節を指定します。
⑦を押したときの小節末尾が指定され、指定した小節間をリピート再生します。
 - リピート再生中に**⑩**、**⑨**、**⑧**を押すと、リピート部分の一時停止、早送り、早戻しができます。



4. もう一度**⑦**を押すと、通常の演奏に戻ります。
ソング番号を変えるとリピート内容は消去されます。



速さ(テンポ)を変える

難しいフレーズはソング再生の速さ(テンポ)を変えて練習してみましょう。

1. ⑬を押します。

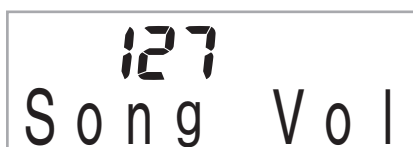
▼を押すとテンポが遅くなり、▲を押すとテンポが速くなります。押し続けると連続して変えられます。

- ▼▲を一緒に押すと、ソングのオリジナルテンポに戻ります。
- ⑬を押すと画面のテンポ数表示が点滅をはじめます。点滅中には⑰(テンキー)でもテンポ数を変えることができます。しばらく何も操作しないと、元の表示に戻ります。
- ソング番号を変えると、ソングのオリジナルテンポに戻ります。

音量(ソングボリューム)を変える

自分で弾く音量とソング再生の音量のバランスを変えてみましょう。

1. ⑳を押して、⑰(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Song Vol”と表示させます(6ページ)。



2. ⑰(テンキー)の[-]または[+]を押して、ソングの音量を変えます。

ソングの音と同じ音色で弾いてみる

鍵盤の音色をソングと同じ音色にして、一緒に弾いてみましょう。

1. 液晶画面の音色名がそのソングの音色名に変わるまで、⑬を押し続けます。

ソングの音色と同じ音色が選ばれているときは、液晶画面の音色名は変わりません。

2. ソング再生に合わせて弾いてみましょう。



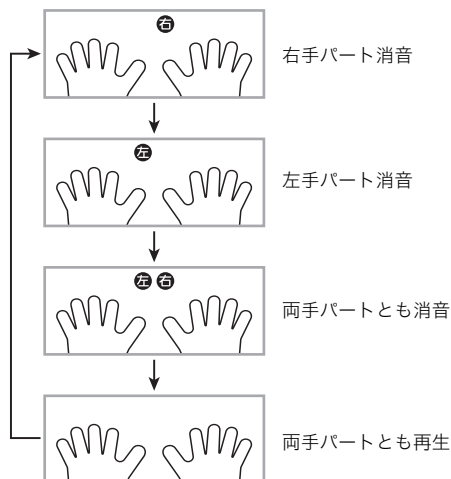
- 右手と左手で違う音色を使っているソングは、右手パートと同じ音色で弾けるようになります。

片手パートの音を消して練習する(パートセレクト)

ソングの右手パートと左手パートのうち、どちらか一方の音を消して、もう一方の音だけを再生することができます。最初から両手で弾くのは難しいと思ったら、一方のパートの音を消してもう一方のパート再生とあわせて練習してみましょう。

1. ⑫を押して、ソングの音を消したいパートを選びます。

⑫を押すたびに、下記のようにパート選択が切り替わります。



2. ⑪を押します。

選んだパートの音を消して、ソングを再生します。



- どちらか一方のパートの音を消して再生しているときは、消したパートの音だけが液晶画面に表示されます。

ソングを増やす(ユーザーソング)

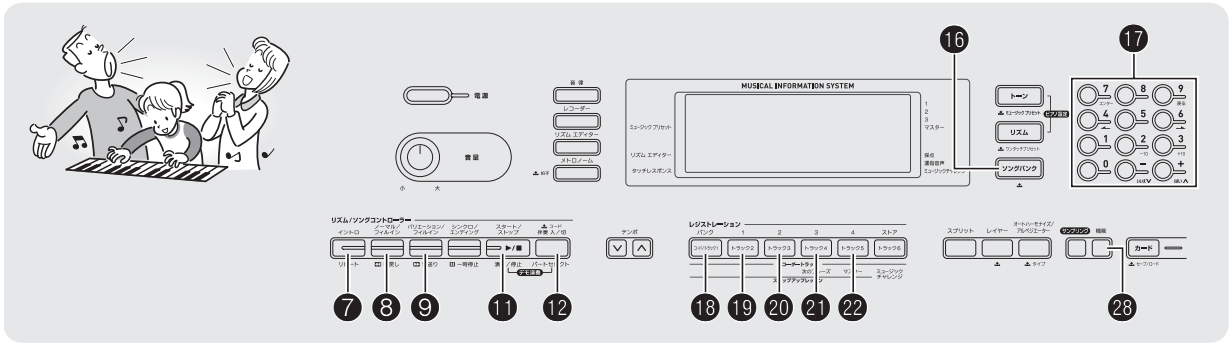
お好きな曲をSDメモリーカードやパソコンから本機のソング番号153～162(ユーザーソング)に読み込んで、再生やレッスン(25ページ)をすることができます。

- SDメモリーカード(56ページ)(CTK-5000のみ)
- パソコン(61ページ)



- 本機に保存したソングデータを消去する方法は51ページをご参照ください。

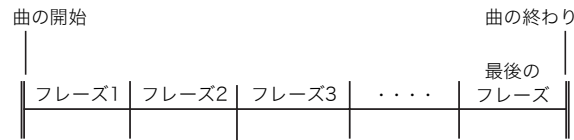
ソング(内蔵曲)で曲をマスターしよう



1曲を弾けるようになるまで、曲全体をいくつかの短い楽節(フレーズ)に分けてそれぞれのフレーズごとに練習した後、最後に全曲を練習する方法がより効果的です。このような練習を強力にサポートしてくれるシステム、それがステップアップレッスンです。

フレーズについて

この楽器に内蔵されている曲は、あらかじめ練習用のフレーズ(区間)に分けられています。



メモ

- 外部機器から読み込んで増やしたソング(24ページ)は、練習用のフレーズに分けられていない場合があります。これらのソングをフレーズに分けて練習したい場合は、29ページの「フレーズの長さを変える」をご参照ください。

ステップアップレッスンの流れ

曲のフレーズごとに右手、左手、両手の順にレッスンを進めます。すべてのフレーズを通して弾けるようになるまで1曲完成です。

フレーズ1

- 右手のレッスン1、2、3
- 左手のレッスン1、2、3
- 両手同時のレッスン1、2、3



フレーズ2、3、4...
最後のフレーズまで同じく練習。

全部のフレーズを覚えたら全曲を練習。

1曲完成!



レッスン中のメッセージ表示について

ステップアップレッスンでは、レッスンの進行をサポートするために、下記の5種類のメッセージが液晶画面に表示されません。

メッセージ	内容
<Phrase>	フレーズを選んだときや、レッスンを開始したときなどに表示されます。 ・ただし一部のフレーズでは<Phrase>の代わりに下記の<Wait>が表示される場合があります。
<Wait>	ソングの前奏や間奏などの、練習する音符が含まれていないフレーズのレッスンを開始したときに表示されます。このフレーズでは再生が終わると自動的に次のフレーズに進みますので、鍵盤を弾かずに待ってください。
NextPhrs	次のフレーズへ自動的に進むときに表示されます。上記の<Wait>が表示されたフレーズの再生が終わったとき、あるいは自動ステップアップレッスン(30ページ)でこのメッセージが出てきます。
From top	自動ステップアップレッスン(30ページ)のなかで、フレーズ1から今練習しているフレーズまでを通して練習する直前に表示されます。
Complete	自動ステップアップレッスン(30ページ)を終了したときに表示されます。

練習するソング、フレーズ、パートを選ぶ

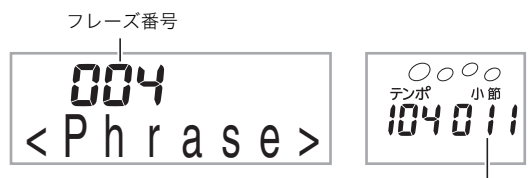
最初に、練習するソング、フレーズ、パートを決めましょう。

1. 練習するソングを選びます(22ページ)。

ソングを選んだときは、最初のフレーズが選ばれます。

2. ④(または⑨)を押すと、次のフレーズへ進み、⑧を押すと1つ前のフレーズに戻ります。

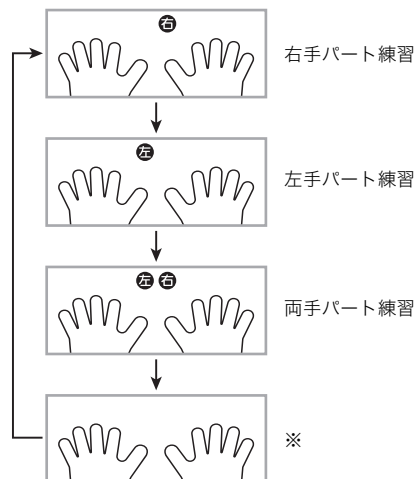
- ⑨または⑧を押し続けると、フレーズを連続して切り替えられます。
- 本機では練習したソングの最後に練習したフレーズを20まで記憶します。そのフレーズを呼び出すには、そのソングを選んでから④を押し続けます。



選ばれたフレーズの最初的小節

3. ⑫を押して、練習するパートを選びます。

⑫を押すたびに、下記のようにパート選択が切り替わります。



※ステップアップレッスン中に⑫を押した場合は、この画面を表示しないで右手パート練習に戻ります。

4. 液晶画面の音色名がそのソングの音色名に変わるまで、⑬を押し続けます。

鍵盤の音がソングと同じ音色になります(24ページ)。

レッスン1~3をはじめよう

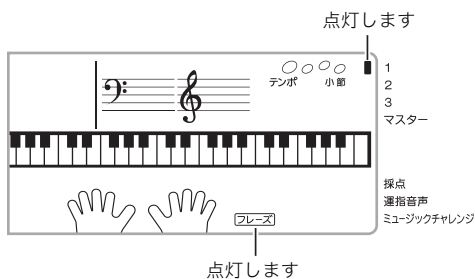
それではレッスンを始めましょう。最初に練習するソング、フレーズ、パートを選んでおきます。

レッスン1、お手本の演奏を聴く

まずは、お手本の演奏を何度も聴いて曲を覚えましょう。

1. ⑩を押します。

お手本の演奏がはじまります。



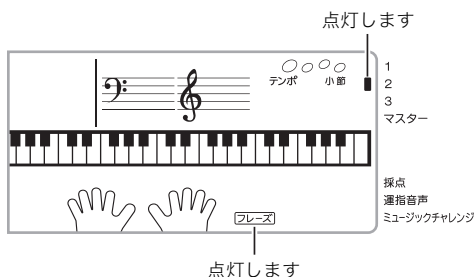
2. お手本の演奏を止めたい場合は⑩(または⑪)を押します。

レッスン2、表示のガイドを見ながら弾く

ソングを弾いてみましょう。液晶画面にこれから弾く鍵盤が表示されます。また、音声で指使いの番号をガイドします。ガイドに合わせて鍵盤を弾く練習をしましょう。間違えて押ししても大丈夫です。正しい鍵盤を弾くまで曲の再生が一時停止してくれます。あせらずじっくり弾いてみましょう。

1. ⑩を押します。

レッスン2がはじまります。



2. 液晶画面表示と音声でガイドがはじまりますので、ガイドに合わせて鍵盤を弾く練習をしましょう。液晶画面表示にはこれから弾く鍵盤がガイドされます。また、音声で指使いの番号をガイドします。



点滅します

点灯します



<レッスン2のガイドについて>

ガイドを参考にどの鍵盤をどの指で弾くのかを覚えて、タイミングを合わせて弾きます。



弾くタイミングがすぎても正しい鍵盤を弾かないと、曲が一時停止します

- 鍵盤表示が点滅から点灯に変わります。
- 正しい鍵盤を音でガイドします。
- 音声で指使いの番号をガイドします。



正しい鍵盤を弾くと、曲演奏が再開され、次の鍵盤が点滅ガイドされます。

3. レッスン2を止めたい場合は⑩(または⑪)を押します。

- 最後まで弾くとレッスン2の採点結果が表示されます。

Bravo!	合格です。次のレッスンへ進みましょう。
Again!	もう一度トライしましょう。

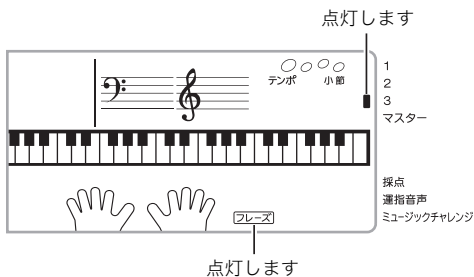
メモ

- 外部機器から読み込んで増やしたソング(24ページ)では、指使いの番号はガイドされない場合があります。

レッスン3、これまでの練習を思い出して弾く

正しい鍵盤を弾くまで曲が停止したままになる点はレッスン2と同じですが、次に弾く鍵盤の事前のガイドがありません。レッスン2までの練習を思い出しながら弾いてみましょう。

1. **⑳**を押します。
レッスン3がはじまります。



2. 曲に合わせて弾きます。

<レッスン3のガイドについて>

レッスン2で覚えた鍵盤を弾きます。



弾くタイミングがすぎても正しい鍵盤を弾かないと、曲が一時停止します。

- 正しい鍵盤を音でガイドします。



それでも正しい鍵盤を弾かないと、レッスン2と同様の液晶画面と音声によるガイドが出ます。



正しい鍵盤を弾くと、曲演奏が再開されます。

3. レッスン3を止めたい場合は**㉑**(または**㉒**)を押します。
• 最後まで弾くとレッスン2と同様に、レッスン3の採点結果が表示されます。

1曲を通して弾いてみる

レッスン1、2、3ですべてのフレーズが弾けるようになったら、最後に自動演奏に合わせて1曲弾いてみましょう。

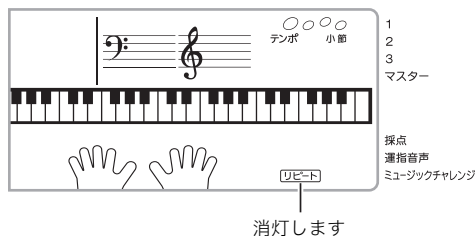
1. **㉓**を押してパートを両手オフにして、**㉔**を押します。
両手で弾いてみましょう。練習の成果はいかがですか？

レッスン中のさまざまな設定

フレーズを繰り返さないようにする

レッスン1からレッスン3で、練習しているフレーズを繰り返さないようにできます。

1. **㉕**を押します。
フレーズをリピートしなくなります。



指番号の音声ガイドを消す

レッスン2、レッスン3での音声による指使い番号ガイドをオフにできます。

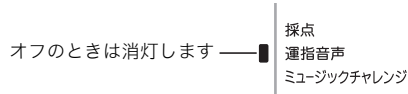
1. **㉖**を押して、**㉗**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“LESSON”と表示させます(6ページ)。



2. **㉗**(テンキー)の[7](エンター)を押します。



3. **㉗**(テンキー)の[-]を押して、オフに設定します。



弾くべき音のガイドを消す

レッスン2、レッスン3での弾くべき音が鳴るガイドをオフにできます。

1. **Ⓢ**を押して、**Ⓜ**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“LESSON”と表示させます(6ページ)。
2. **Ⓜ**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
3. **Ⓜ**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“NoteGuid”と表示させます。



4. **Ⓜ**(テンキー)の[-]を押して、オフに設定します。

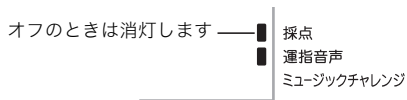
採点結果の表示を出さないようにする

レッスン2、レッスン3で表示される採点結果の表示機能をオフにできます。

1. **Ⓢ**を押して、**Ⓜ**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“LESSON”と表示させます(6ページ)。
2. **Ⓜ**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
3. **Ⓜ**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Scoring”と表示させます。



4. **Ⓜ**(テンキー)の[-]を押して、オフに設定します。



フレーズの長さを変える

フレーズの長さを変えてレッスンしたり、フレーズに分けずにソング全体をはじめから終わりまで通してレッスンすることができます。

1. **Ⓢ**を押して、**Ⓜ**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“LESSON”と表示させます(6ページ)。
2. **Ⓜ**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
3. **Ⓜ**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“PhraseLn”と表示させます。



4. **Ⓜ**(テンキー)の[-]または[+]を押して、フレーズの長さを選びます。

オフ(oFF)	フレーズに分けずに、ソングのはじめから終わりまで通して練習できます。
プリセット(PrE)	ソングで指定されている長さ。

以下は外部から読み込んで増やしたソング(24ページ)にのみ有効です。

1(Ln1)	1小節で1フレーズ
2(Ln2)	2小節で1フレーズ
3(Ln3)	4小節で1フレーズ

自動的にレッスンを進めてみよう —自動ステップアップレッスン—

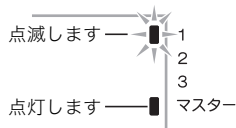
自動ステップアップレッスン機能を使えば、すべてのレッスンを本機にお任せで進められます。

1. 練習するソングとパートを選びます(22ページ)。

2. **🎵**を押します。

フレーズ1のお手本を聴くレッスンから開始します。

- レッスン1では、1回のお手本を自動演奏した後、レッスン2へ進みます。



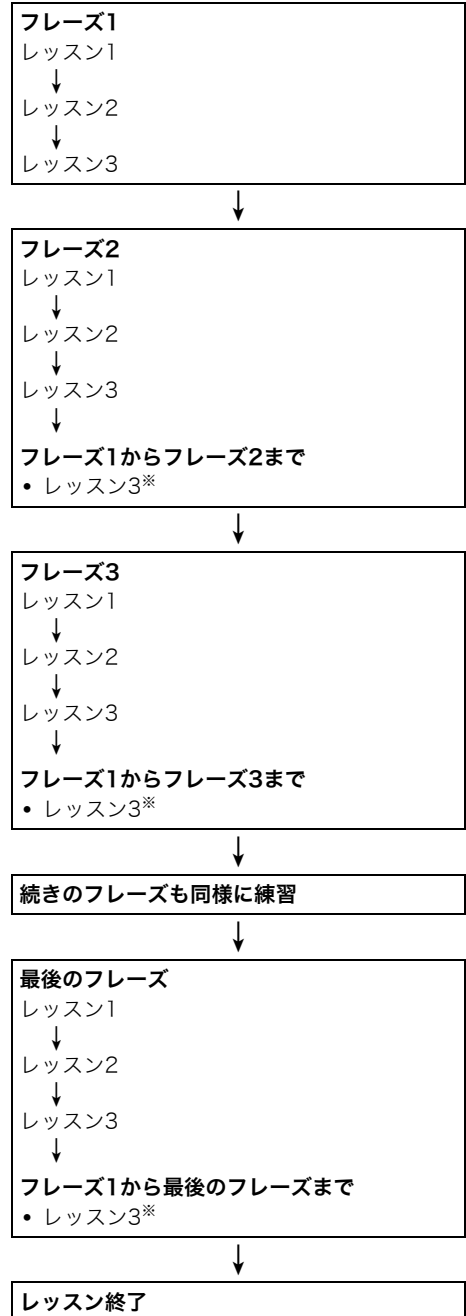
3. レッスンを最後まで合格すると、自動ステップアップレッスンを終了します。

- レッスン2、レッスン3では、「Bravo!」の採点結果が出たら次のレッスンへ進みます。
- レッスンを中止する場合は、**🎵**(または**🔴**)を押します。

メモ

- 自動ステップアップレッスン中でも、**🎵**、**🔴**、または**🔴**~**🔴**を使ってレッスンやフレーズを変更できます。
- 自動ステップアップレッスンを開始すると、フレーズリピート設定(28ページ)、弾くべき音のガイド(29ページ)と採点結果表示(29ページ)は自動的にオンになります(レッスン中はオフにできません)。

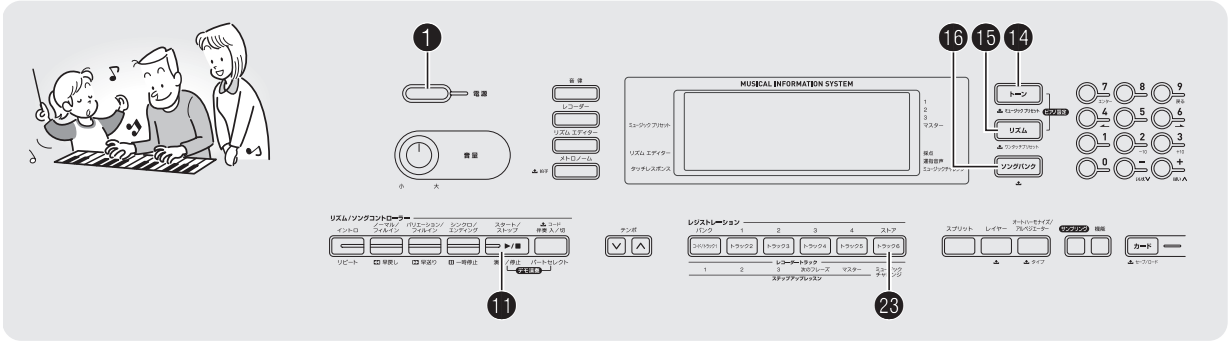
■ 自動ステップアップレッスンの順序



※曲のはじめから練習したフレーズまでを通して弾くレッスン3です。このレッスン3は採点結果にかかわらず1回のみで終了して、次のフレーズのレッスンに進みます。



鍵盤ゲーム(ミュージックチャレンジ)

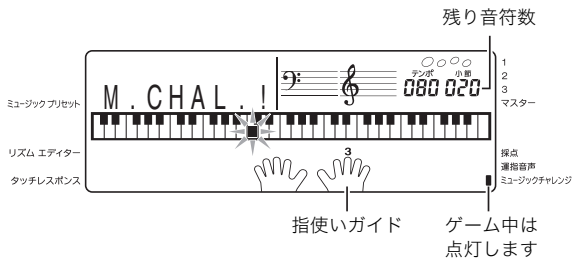


液晶画面の鍵盤ガイドと指使いガイドに合わせて、どれだけ早く反応して押せるかを競うゲームです。

1. 16を押します。

2. 23を押します。

液晶画面の鍵盤ガイドが点滅しはじめます。鍵盤ゲーム曲のスタートです。



3. 液晶画面の鍵盤ガイドが点滅から点灯に変わった後に、ガイドされている指でできるだけ早くその鍵盤を押します。

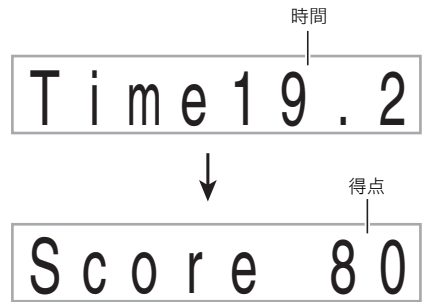
弾いた鍵盤ガイドが消えたら、1回クリアです。すぐに次の鍵盤ガイドが点滅しますので、続けて鍵盤を押してください。

- 鍵盤ガイドが点灯が変わってからその鍵盤を弾くまでの時間が表示されます(0.1秒単位)。表示される時間が短いほど判定結果が良くなります。
- 鍵盤ガイドが点滅から点灯に変わる前に弾いてしまった場合はクリアになりません。



4. 20回クリアするとゲームが終了します。

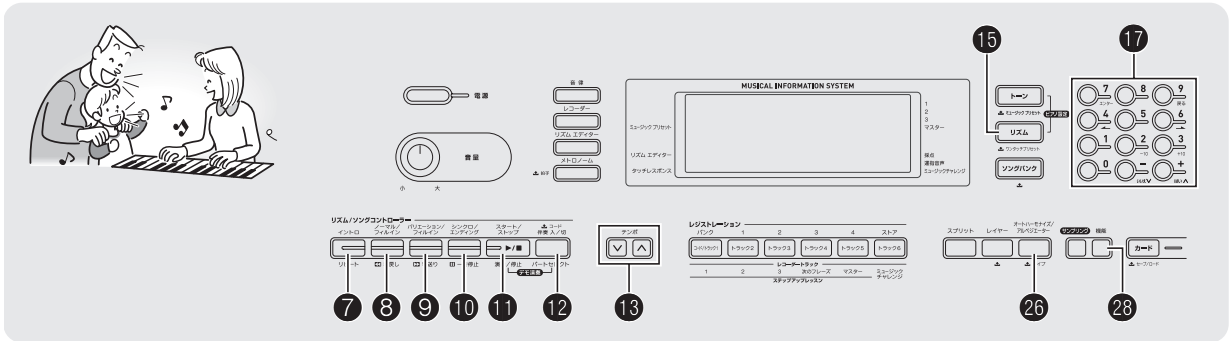
- 液晶画面表示に時間が表示されます。少したってから時間が得点表示に変わります。液晶画面の得点表示を消すには14、15、16のいずれかを押します。
- ゲームを中断したいときは23または11を押します。



メモ

- 音と指使いはゲームごとにランダムに選ばれます。
- ゲーム曲のテンポは変更できません。
- ゲーム中は1、11、23以外のボタンは使えません。

自動伴奏をバックに演奏しよう



自動伴奏機能とは、お好みの伴奏リズムを選び、左手でコード(和音)を押すだけで、選んだリズムにぴったりの伴奏が自動に鳴る機能です。1人でもアンサンブル演奏をお楽しみいただけます。

メモ

- 自動伴奏で鳴るパート(楽器)には、下記の3種類があります。
 - リズム(打楽器)
 - ベース(低音楽器)
 - ハーモニー(さまざまな楽器)

(1)だけを鳴らしたり、(1)~(3)の全楽器を同時に鳴らすこともできます。

リズムパートだけを鳴らそう

リズム(打楽器)は自動伴奏の土台となる重要なパートです。本機には8ビートやワルツなどさまざまな種類のリズムが内蔵されていますので、まずは基本となるリズムパートだけを聴いて、それに合わせて弾いてみましょう。

リズムパターンの選択とスタート/ストップ

- 15を押します。



- 17(テンキー)でリズム番号を入力します。
 - リズムの種類は別紙「Appendix」をご覧ください。
- 11(または8)を押します。

リズムがスタートします。



- リズムに合わせて弾きましょう。
- もう一度11を押すとリズムがストップします。

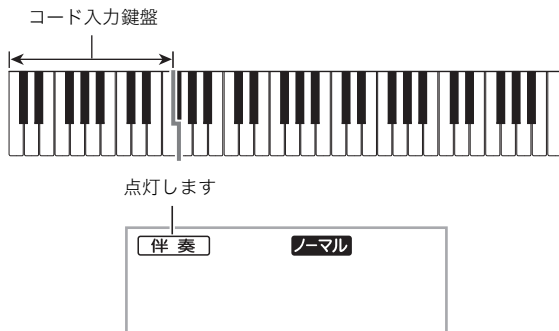
すべてのパートを鳴らしてみよう

コードを付けて伴奏する

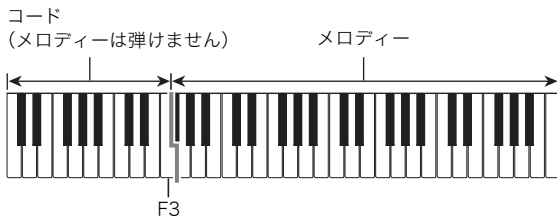
左手でコードを押さえると、選んだリズムにベースやハーモニーを加えた伴奏が自動的に演奏されます。1人で演奏してもバンド演奏のように楽しく演奏できます。

1. リズムパートの自動伴奏をスタートさせます。
2. **12**を押します。

左側の鍵盤でコードを入力できる状態になります。



3. コード入力鍵盤でコードを押さえます。
ベースやハーモニーなど、リズムパート以外の楽器も鳴りはじめます。



例) コード入力鍵盤の「レ・ファ[#]・ラ・ド」を押さえる。

「レ・ファ[#]・ラ・ド」の和音(コード:D7)で伴奏が鳴ります。



4. 左手でいろいろなコードを押さえて、右手でメロディーを弾きましょう。
5. もう一度**12**を押すと、リズムだけの伴奏に戻ります。

メモ

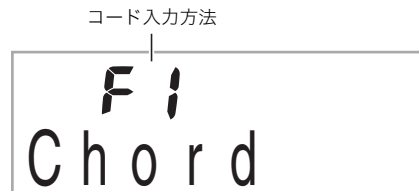
- コードを押さえると同時に伴奏をスタートさせるには、「シンクロナスタート」(36ページ)をご参照ください。
- スプリットポイントを変更して、コード入力鍵盤の範囲を変えることができます(13ページ)。

コードの入力方法の選択

コードの入力方法は、以下の5種類から選べます。

- フィンガード1
- フィンガード2
- フィンガード3
- カシオコード
- フルレンジコード

1. 液晶画面にコードの入力方法の画面が表示されるまで、**12**を押し続けます。



2. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、コード入力方法を選びます。
 - 入力方法の画面は、しばらく何も操作をしないと元の画面に戻ります。

■フィンガード1、2、3について

これらは、コード構成音のままに鍵盤を押さえて入力する方法です(一部のコードでは構成音を省略して、1~2鍵でも入力できます)。

入力できるコードの種類と鍵盤の押さえかたについては、別紙「Appendix」をご覧ください。

コード入力鍵盤



●フィンガード1

コードの構成音の鍵盤を押さえます。



●フィンガード2

フィンガード1とは違い、6thの入力はできません。



●フィンガード3

フィンガード1とは違い、一番低い鍵盤の音をベース音として分数コードが入力できます。



■カシオコードについて

簡単な指使いで次の4種類のコードを演奏できます。



コード入力鍵盤



コードの種類	例
メジャーコード コード入力鍵盤の上側にアルファベットで音名が書いてあります。コード名と同じ音名の鍵盤を1つ押します(コード入力鍵盤の範囲内であれば、1オクターブ違う同音でもかまいません)。	C(Cメジャー)
マイナーコード メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を1つ押します。	Cm(Cマイナー)
セブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を2つ押します。	C7(Cセブンス)
マイナーセブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を3つ押します。	Cm7 (Cマイナーセブンス)

メモ

- 2つ目以降の鍵盤は、1つめより右側なら白鍵・黒鍵を問わずどれでも使用できます。

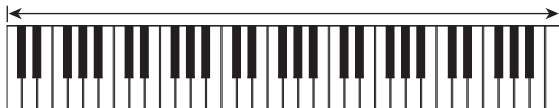
■フルレンジコードについて

すべての鍵盤でコードの入力とメロディ演奏ができます。

入力できるコードの種類については、別紙「Appendix」をご覧ください。



コード入力・メロディ鍵盤



自動伴奏を使いこなそう

自動伴奏に変化をつけて演奏する

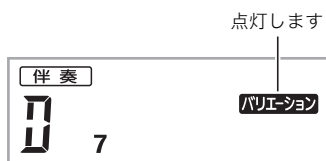
自動伴奏にメリハリをつけて演奏できます。気の利いたイントロから入る、サビ前をぐっと盛り上げる、おしゃれなエンディングをつけるなど、自動伴奏をさまざまに彩る演出機能を使いこなしましょう。

■バリエーション(伴奏パターンの変化形)

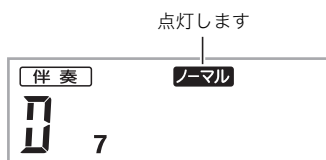
ノーマルパターン(基本)の演奏を変化させたバリエーションパターンです。基本パターンとは一味違った演出ができます。

1. ⑨を押します。

バリエーションパターンがスタートします。



2. ⑩を押すと、ノーマルパターンの演奏に戻ります。



■イントロ(前奏)

数小節のイントロを入れます。

1. ⑦を押します。

イントロがスタートします。イントロ演奏の後、通常のパターン演奏になります。

- イントロ演奏中に⑨を押した場合は、イントロ終了後にバリエーションパターン演奏になります。



■変化フレーズ(フィルイン)

曲の途中にフィルインを入れます。

- フィルインとは、曲調の切れ目に入れる短いフレーズのことで、メロディーとメロディーのつなぎ目やアクセントとして使ったとき、とても華やかな演奏になります。
- ノーマル、バリエーションのそれぞれに違ったフィルインパターンがあります。

●ノーマル・フィルイン

1. ノーマルパターン演奏中に、⑧を押します。

ノーマルパターンのフィルインが演奏されます。

- フィルイン終了後にノーマルパターン演奏に戻ります。

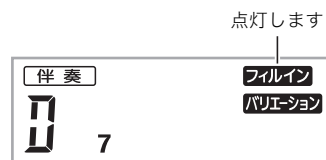


●バリエーション・フィルイン

1. バリエーションパターン演奏中に、⑨を押します。

バリエーションパターンのフィルインが演奏されます。

- フィルイン終了後にバリエーションパターン演奏に戻ります。

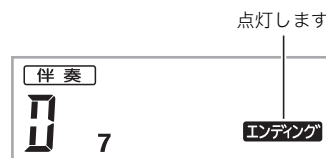


■エンディング(終わり)

数小節のエンディングパターンを入れます。

1. 自動伴奏の演奏中に、⑩を押します。

エンディングパターンが演奏され、自動的に伴奏が停止します。



■シンクロスタート(演奏と同時に伴奏をスタートする)

鍵盤を押すタイミングと同時に、伴奏をスタートさせることができます。

1. ⑩を押します。

伴奏スタート待機の状態になります。



2. 鍵盤でコードを押さえます。

同時にフルパート伴奏(ノーマル)がスタートします。

シンクロ待機中に以下の操作をしておくと、ノーマル以外のパターンで開始できます。

- イントロからはじめたいとき → ⑦を押します。
- パリエーションからはじめたいとき → ⑨を押します。

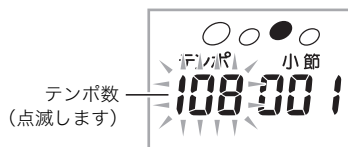
テンポ(速さ)を変える

自分の弾きやすいテンポに変えてみましょう。

1. ⑬を押します。

▼を押すとテンポが遅くなり、▲を押すとテンポが速くなります。押し続けると連続して変えられます。

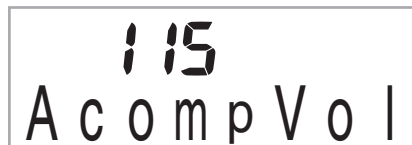
- ▼▲を一緒に押すと、そのとき選ばれているリズムの初期値に戻ります。
- ⑬を押すと画面のテンポ数表示が点滅をはじめます。点滅中には⑰(テンキー)でもテンポ数を変えられます。
- しばらく何も操作をしないと、元の表示に戻ります。



自動伴奏の音量を変える

自分で弾く音量と自動伴奏の音量のバランスを変えてみましょう。

- ⑳を押して、⑰(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“AcompVol”と表示させます(6ページ)。



- ⑰(テンキー)の[-]または[+]を押して、伴奏の音量を変えます。

お勧めの音色やテンポにする (ワンタッチプリセット)

ワンタッチプリセットとは、リズムパターンごとにそのリズムに良く合った音色やテンポを、ワンタッチで呼び出すことができる機能です。

- 液晶画面表示が音色の表示になるまで、⑮をしばらく押し続けます。
鍵盤の音色やテンポなどが現在選択されているリズムに対応した設定にセットされます。
- 鍵盤でコードを押さえて演奏します。
伴奏も同時にスタートします。

メロディーの音に和音をつけてみよう (オートハーモナイズ)

右手で弾いているメロディに適した和音を自動でつけます。メロディーに厚みをつけて演奏してみましょう。12種類のオートハーモナイズのタイプから演奏に合ったタイプを選んでみましょう。

メモ

- オートハーモナイズ機能は、アルペジエーター(50ページ)と同じボタン Ⓢ で操作します。2つの機能を同時に使うことはできません。

1. Ⓢ を押して、コードをつけて伴奏を鳴らせるようにします(33ページ)。

- コード入力の方法がフルレンジコードに設定されているときは、オートハーモナイズは使えません。他のコード入力方法に変更してください。

2. 画面にオートハーモナイズ、またはアルペジエーターのタイプ番号とタイプ名が表示されるまで、 Ⓢ を押し続けます。

- しばらく何も操作をしないと、元の表示に戻ります。



3. Ⓢ (テンキー)の[-]または[+]を押して、オートハーモナイズのタイプを選びます。

- タイプ番号013~102はアルペジエーター用のタイプですので、ここでは選ばないようにしてください。



タイプ番号	タイプ名	内容
001	Duet 1	演奏したメロディーの下に、クローズな(2~4度ほど離れた)ハーモニーを1音加えます。
002	Duet 2	演奏したメロディ音の下に、オープンな(4~6度以上離れた)ハーモニーを1音加えます。
003	Country	カントリーの演奏に適したハーモニーを加えます。
004	Octave	1オクターブ下の音を加えます。
005	5th	5度上の音を加えます。
006	3-Way Open	2声(演奏したメロディーと合わせて3声)のオープンハーモニーを加えます。
007	3-Way Close	2声(演奏したメロディーと合わせて3声)のクローズハーモニーを加えます。
008	Strings	ストリングス演奏に適したハーモニーを加えます。
009	4-Way Open	3声(演奏したメロディーと合わせて4声)のオープンハーモニーを加えます。
010	4-Way Close	3声(演奏したメロディーと合わせて4声)のクローズハーモニーを加えます。
011	Block	ブロックコード音を加えます。
012	Big Band	ビッグバンド演奏に適したハーモニーを加えます。

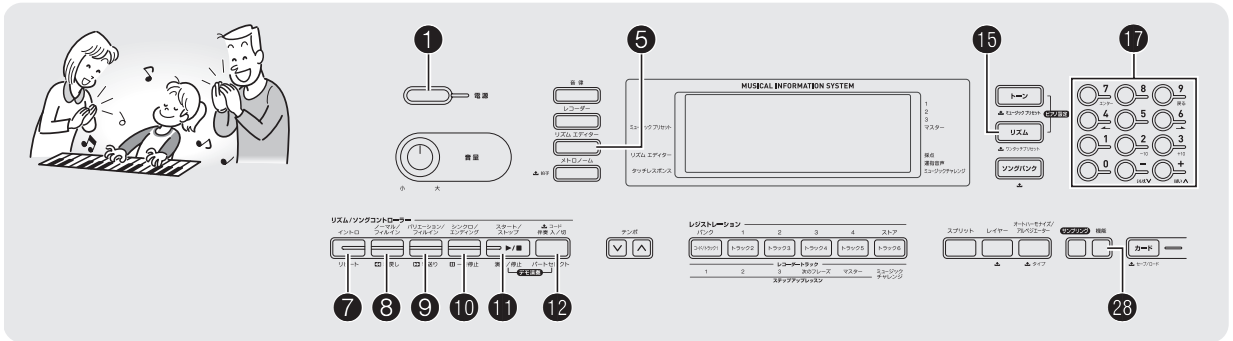
4. Ⓢ を押してオートハーモナイズをオンにします。

左手でコードを弾きながら右手でメロディーを弾くと、メロディーの音にハーモニーが加わります。

- もう一度 Ⓢ を押すと、オートハーモナイズがオフに戻ります。



自動伴奏を編集してみよう



本機にあらかじめ記録されている自動伴奏を編集して、自分だけのオリジナル伴奏(ユーザーリズム)を作ってみましょう。

- 編集した伴奏パターンはリズム番号201~210(CTK-4000では181~190)に10種類まで保存できます。

■編集できる伴奏パターンと楽器パートについて

本機の自動伴奏編集では、一つのリズム番号に対して以下をそれぞれ編集することができます。

- 伴奏パターン(イントロ、フィルインなど): 6種類
- 楽器パート(ドラム、ベースなど): 8種類

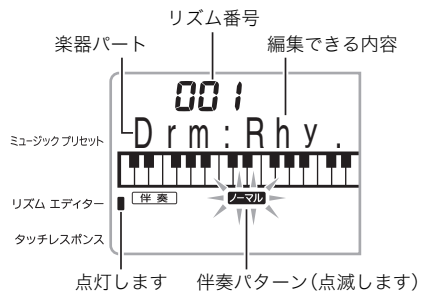
		伴奏パターン						選択ボタン 12
		イントロ	ノーマル	ノーマル・フィルイン	バリエーション・イントロ	バリエーション・フィルイン	エンディング	
		I	N	NF	V	VF	E	
1	ドラム	I-1	N-1	NF-1	V-1	VF-1	E-1	↓
2	パーカッション	I-2	N-2	NF-2	V-2	VF-2	E-2	
3	ベース	I-3	N-3	NF-3	V-3	VF-3	E-3	
4	コード1	I-4	N-4	NF-4	V-4	VF-4	E-4	
5	コード2	I-5	N-5	NF-5	V-5	VF-5	E-5	
6	コード3	I-6	N-6	NF-6	V-6	VF-6	E-6	
7	コード4	I-7	N-7	NF-7	V-7	VF-7	E-7	
8	コード5	I-8	N-8	NF-8	V-8	VF-8	E-8	
		選択ボタン 7	8	8	9	9	10	

■編集できる内容

- リズム番号
- パートオン/オフ
- 音色番号
- 音量
- 左右のスピーカーの音量調整(パンニング)
- リバーブのかかり具合(リバーブセンド)
- コーラスのかかり具合(コーラスセンド)

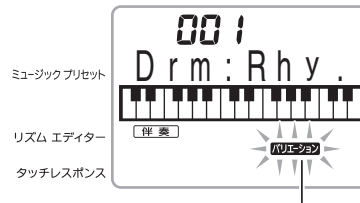
編集して保存する

1. 編集したいリズム番号を選びます。
2. 6を押します。



液晶画面に「Err Mem Full」と表示された場合の対処方法については、68ページの「エラーメッセージ一覧」をご参照ください。

3. 7~10を押して、編集したい伴奏パターンの種類を選びます。
選んだパターンの名称が表示されます。



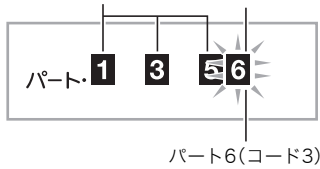
9でバリエーションを選んだ場合

各ボタンで選べるパターン

- 7: イントロ
- 8: ノーマル、またはノーマル・フィルイン
(押すたびに切り替わります)
- 9: バリエーション、またはバリエーション・フィルイン
(押すたびに切り替わります)
- 10: エンディング

4. **12**を押して、編集したい楽器パートを選びます。
選んだ楽器パートの番号が表示されます。

データがあるパート 編集に選ばれたパート(点滅します)



5. **15**を押します。
リズム番号が表示されます。
6. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、選んだ楽器パートに割り当てたいリズム番号を選びます。
楽器パートごとに、別のリズム番号を割り当てられます。
- **11**を押すと、現在表示されているリズム番号の自動伴奏を再生します。
 - イントロの8つの楽器パート(1~8)はすべて共通のリズム番号になります(たとえば1-1にリズム003を割り当てると、1-2~8も自動的にリズム003になります)。その後1-2を編集するときにリズムを004に変えたと、さきほど設定した1-1のリズムも004に変わってしまいます。またイントロと同様に、エンディングのE-1~8も共通のリズム番号になります。

7. **23**を何度か押して、編集したい設定の画面にします。
- **23**を押すたびに設定の種類(1~6)が切り替わります。
 - **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、選んだ設定の値を決めます。
 - **11**を押すと、現在の設定内容で編集パートを再生できます。

	設定の種類	表示設定	範囲
1	パートオン/オフ	Part	On/Off
2	音色番号※	Tone	001 ~ 553(CTK-4000) 001 ~ 653(CTK-5000)
3	音量	Vol.	000 ~ 127
4	左右スピーカーの音量調整(パンニング)	Pan	-64 ~ 0 ~ 63
5	リバーブのかかり具合(リバーブセンド)	Rvb	000 ~ 127
6	コーラスのかかり具合(コーラスセンド)	Cho.	000 ~ 127

※パート1,2にはドラムセット音色(CTK-5000: 654~670番)(CTK-4000: 554~570番)しか割り当てられません。

8. 手順4~7を繰り返して、3で選んだ伴奏パターンの編集を完了させます。

9. 手順3~8を繰り返して、伴奏パターン(イントロ~エンディング)の編集を完了させます。

10. **5**を押します。
編集した内容を保存するかどうか確認する画面が表示されます。

- 11-1. 編集した自動伴奏を保存しないで編集を終了するには、**17**(テンキー)の[-]を押します。
これまでに編集したデータを消去してよいかを確認する画面が表示されます。**17**(テンキー)の[+]を押すと編集の操作を終了します。

- 11-2. 編集した自動伴奏を保存するには、**17**(テンキー)の[+]を押します。



- **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、編集内容を保存するリズム番号を選びます。
- 保存するリズムのユーザーリズム名を編集できます。**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を押して画面のリズム名の変えたい文字を選んで、[-]と[+]で文字を変更します。

!	"	#	\$	%	&	'	()	
*	+	,	-	.	/	0	1	2	3
4	5	6	7	8	9	:	;	<	=
>	?	@	A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[
¥]	^	_	`	a	b	c	d	e
f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
p	q	r	s	t	u	v	w	x	y
z	{		}						

12. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
保存してよいかを確認する画面が表示されます。
- **17**(テンキー)の[+]を押すと、保存を実行します。
 - **17**(テンキー)の[-]を押すと、[7](エンター)を押す前の画面に戻ります。

重要

- すでにデータを保存してあるリズム番号に新しいデータを保存すると、それまで保存していたデータは消去されます。

メモ

- 自動伴奏を編集しているときは、鍵盤の音色を変えることはできません。

■ユーザーリズムのデータを外部機器に保存するには

- SDメモリーカード(55ページ)(CTK-5000のみ)
- パソコン(61ページ)

■ユーザーリズムのデータの保持について

乾電池を入れずにACアダプターだけで使用している場合は、ACアダプターの接続が切れると保存したユーザーリズムの内容が消去されます。

記録した内容を保つためには

- 乾電池とACアダプターの両方をご使用ください。
- ACアダプターを抜くときは、消耗していない乾電池(使用推奨期限内)を入れておいてください。
- 乾電池交換は、ACアダプターを接続した状態で行ってください。

なお、ACアダプターを差したり抜いたりするときや乾電池を交換するときは、**1**でいったん電源を切ってから行ってください。

保存したデータを消去する

以下の操作は自動伴奏の編集の途中では、消去できません。

1. **28**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“DELETE”と表示させます(6ページ)。



使用しているメモリー量(単位:キロバイト)



メモリーの残り量

2. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
3. **17**(テンキー)の[6](→)を押します。

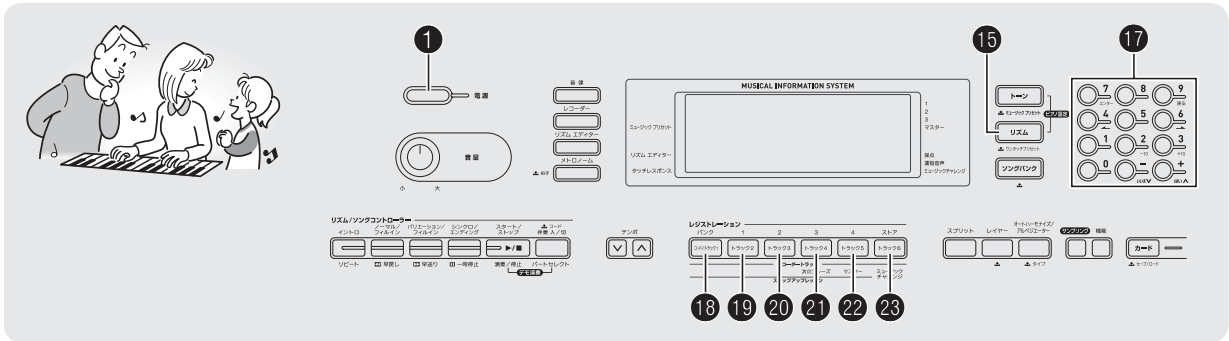


4. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、消去したいユーザーリズムを選びます。
5. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。消去を確認する画面が表示されます。



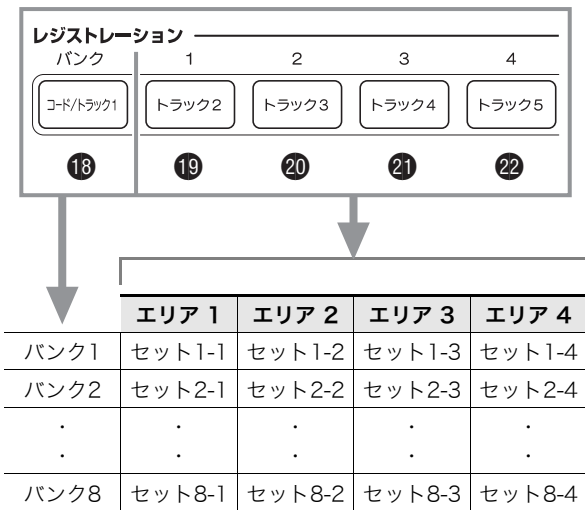
6. **17**(テンキー)の[+](はい)を押してください。消去が終了する画面上に“Complete”が表示され、手順2の画面に戻ります。
 - キャンセルするときは[+](はい)を押さず、[-](いいえ)または[9](戻る)を押してください。

設定を登録しよう(レジストレーション)



レジストレーション機能を使うと、音色やリズムなどの設定を一つのセットとして登録できます。さらにその設定はすぐに呼び出すこともできます。演奏中に次々と音色やリズムを切り替えていくような曲にもチャレンジしてみましょう。

設定内容は32セットまで登録できます。セットを選ぶには**18**、および**19**～**22**を使います。



- バンクセレクトボタン**18**を押すことに、バンク1～8の間で切り替わります。
- **19**～**22**のいずれかのボタンを押すと、現在選択されているバンクに対応したエリアを選択できます。

■登録の例

登録データは以下ようになります。

例：バンク1、セット1-1～セット1-3に登録する。

演奏する曲のうち、最初のメロディーの設定をバンク1のセット1-1に登録します。2番目のメロディーの設定をバンク1のセット1-2に、3番目のメロディーの設定をバンク1のセット1-3に登録します。

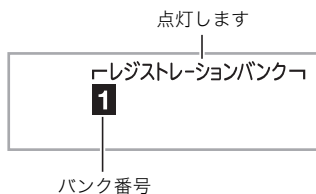
	セット 1-1	セット 1-2	セット 1-3
音色番号	001	062	001
リズム番号	118	005	089
テンポ	080	140	089

■登録できる内容

- 音色番号(メイン、レイヤー、スプリット)
- リズム番号
- テンポ
- オートハーモナイズ
- トランスポーズ
- スプリットポイント
- タッチレスポンス
- オクターブシフト
- コード入力方式
- 伴奏の音量
- アルペジエーター(オン/オフ、タイプ)
- シンクロスタート
- リバープ(オン/オフ、タイプ)
- コーラス(オン/オフ、タイプ)
- ベンドレンジ(CTK-5000のみ)
- アカンプ(オン/オフ)
- アルペジエーターホールド(オン/オフ)
- レイヤー(オン/オフ)
- スプリット(オン/オフ)
- ペダルの効果

登録する

1. ⑬を押します。



2. 音色やリズム番号などを、登録したい内容に設定します。

3. ⑭を押して、登録するバンクを選びます。
⑭を押すごとに、バンク番号が切り替わります。



- ⑭を押しながら⑰(テンキー)の数字ボタンを押してバンクを選ぶこともできます。

4. ⑲を押しながら登録したいエリア⑳～㉒を押します。

手順2で設定した内容がひとつのセットとして登録されます。

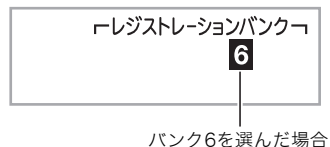
- 新しく登録をすると、以前にそのエリアに登録されていた内容は消去されます。

セット4-1として登録した場合



登録したデータを呼び出す

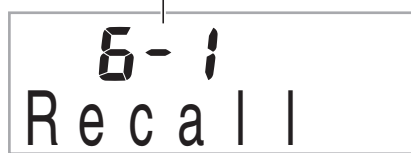
1. ⑭を押して、呼び出したいバンクを選びます。



2. 呼び出したいエリア⑳～㉒を押します。

登録されているセット内容が呼び出され、音色やテンポなどが自動的に切り替わります。

セット6-1を呼び出した場合



メモ

- オクターブシフト(15ページ)の設定を変えているデータを呼び出した場合、弾いている鍵盤の音が消えることがあります(ペダルで延ばしている音は鳴り続けます)。

■登録したデータを外部機器に保存するには

- SDメモリーカード(55ページ)(CTK-5000のみ)
- パソコン(61ページ)

■レジストレーションのデータの保持について

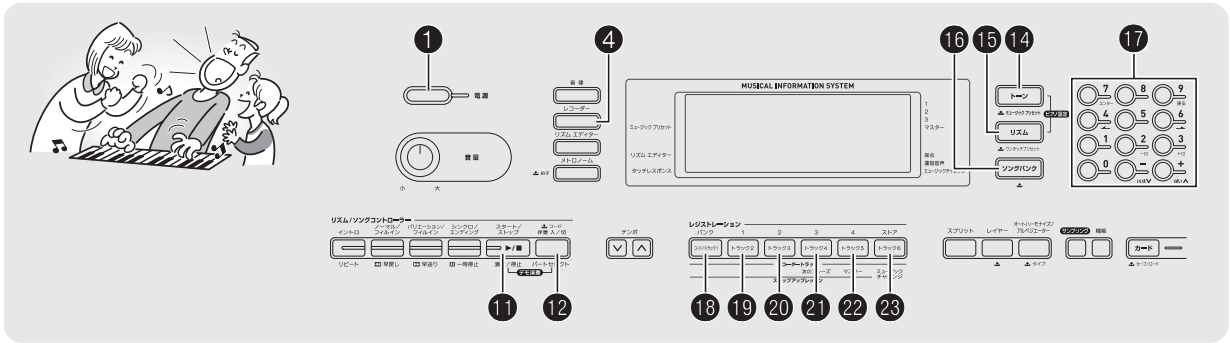
乾電池を入れずにACアダプターだけで使用している場合は、ACアダプターの接続が切れると登録したレジストレーションの内容が消去されます。

登録した内容を保つためには

- 乾電池とACアダプターの両方をご使用ください。
- ACアダプターを抜くときは、消耗していない乾電池(使用推奨期限内)を入れておいてください。
- 乾電池交換は、ACアダプターを接続した状態で行ってください。

なお、ACアダプターを差したり抜いたりするときや乾電池を交換するときは、①でいったん電源を切ってから行ってください。

演奏を録音してみよう(レコーダー)

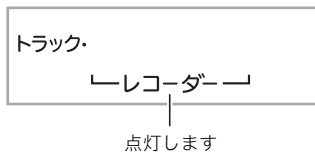


この楽器は自分の演奏した曲を録音して再生することができます。演奏をそのまま録音したり、片手ずつ録音したりできるので、練習にも役立ちます。

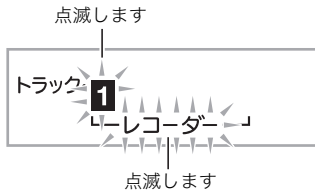
演奏を録音・再生する

弾いたそのままに演奏を録音してみましょう。

1. 15を押します。
2. 4を押します。



3. 4をもう1回押します。
録音の待機状態になります。

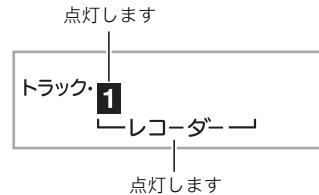


4. 音色やリズムの番号などを設定します。
5. 演奏をはじめます。
鍵盤を弾きはじめると、同時に録音がはじまります。

メモ

- 自動伴奏を開始すると、自分の演奏と一緒に自動伴奏も録音することができます。

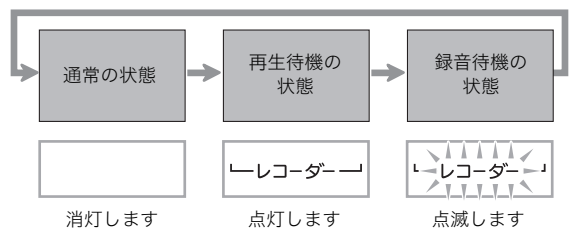
6. 録音を終了するには、11を押します。



7. もう一度11を押すと録音した演奏の再生をします。
11を押すたびに再生と停止を繰り返します。
8. 通常の状態に戻すには、4を2回押します。



- 録音できる残り音符数が100以下になると、手順3の液晶画面の点滅が速くなります。
- 録音できる音符数は、全体で約12000音符です。録音できる音符数を超えると録音が終了します。
- 4を押すたびに下記のように状態が切り替わります。再生の待機状態にして11を押すと、録音したデータを何度も聴くことができます。



■録音した曲の消去

手順3の操作をした後に、鍵盤を弾かないで④を押し続けると液晶画面に“Tr.Del?”と表示されますので[+] (はい) を押しします。

❗重要

- 録音中に本機の電源がオフになると、録音した内容は消去されます。
- 新しく録音すると、以前に録音した内容は消去されます。

■録音したデータの保持について

乾電池を入れずにACアダプターだけで使用している場合は、ACアダプターの接続が切れると録音された内容が消去されます。

録音した内容を保つためには

- 乾電池とACアダプターの両方をご使用ください。
- ACアダプターを抜くときは、消耗していない乾電池(使用推奨期限内)を入れておいてください。
- 乾電池交換は、ACアダプターを接続した状態で行ってください。

なお、ACアダプターを差したり抜いたりするときや乾電池を交換するときは、①でいったん電源を切ってから行ってください。

パートごとに重ねて録音する・選んで再生する

曲をいくつかのパート(楽器ごとや、右手と左手など)に分けて、5回まで重ねて録音できます。

■録音トラックについて

各パートを録音するための記録部分をトラックといいます。トラックには1から6があります。

- トラック番号を設定しないで録音すると、トラック1に録音されます。

鍵盤演奏の他に以下が記録できます。

• トラック1に記録できる内容

番号や設定 : 音色番号、リズム番号、テンポ、リバーブ設定、コーラス設定、コード、レイヤー設定、スプリット設定、オートハーモニイズ/アルペジエーター設定

演奏中の操作 : ペダル、

ピッチベンドホイール(CTK-5000のみ)、
イントロボタン、
シンクロ/エンディングボタン、
ノーマル/フィルインボタン、
パリエーション/フィルインボタン

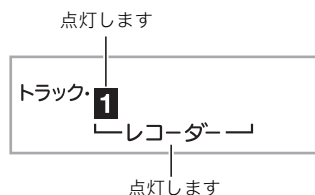
• トラック2~6に記録できる内容

音色番号、ペダル操作、ピッチベンドホイール操作(CTK-5000のみ)

トラック1~6に録音する

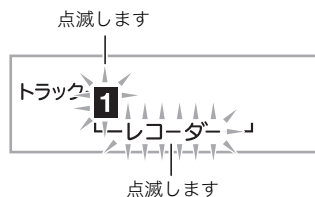
1. トラック1に最初のパートを録音します。

トラック1の録音は「演奏を録音・再生する」の手順1~6をご参照ください(43ページ)。



2. ④を押します。

録音の待機状態になります。



3. ⑲~㉓のいずれかのボタンを押して、次に録音するトラック番号を選びます。

選んだトラックが録音待機状態になります。

例: トラック2を選んだ場合



- トラック1と違う音色で録音したい場合は、⑭を押してから⑰(テンキー)で音色番号を入力します。

4. ⑪を押します。

先に録音したトラック1の再生がはじまります。同時に録音がはじまりますので、再生に合わせて演奏をしましょう。

5. 演奏が終わったら⑪を押します。

- もう一度⑪を押すと録音した演奏の再生をします。⑪を押すごとに再生と停止を繰り返します。

録音されたトラックの番号が液晶画面で点灯します



6. 手順2~5を繰り返して他のパートを録音します。

7. すべてのパートの録音が終わったら⑪を押します。

- 録音したトラックの再生がはじまります。⑪を押すごとに再生と停止を繰り返します。
- ⑬～⑳の中で再生させたくないトラック番号のボタンを押すと、トラック番号が液晶画面の表示から消えて、そのトラックが再生されなくなります。このとき④を押して手順2に進むと、選んだトラックの音を鳴らさずに録音できます。

例: トラック2と3を選んだ場合



8. 通常の状態に戻すには、④を2回押します。



■録音したトラックの消去

手順3の操作をした後に、鍵盤を弾かないで④を押し続けると液晶画面に“Tr.Del?”と表示されますので[+] (はい) を押します。

2曲以上録音する・選んで再生する

すでに録音した演奏データを消去せずに、演奏を5曲(ソング1～5)まで録音できます。また、曲を選んで再生できます。

1. ⑬を押します。

2. ④を押します。

液晶画面の左上に曲番号がしばらく表示されますので⑰(テンキー)を押して録音または、再生するソング番号を入力します(しばらく何も操作をしないと、曲番号が消えます)。

例: ソング2を選んだ場合



3. 録音するときは④、再生するときは⑪を押します。

録音または、再生を止めるには⑪を押します。

4. 通常の状態に戻すには、④を2回押します。

■録音した曲の消去

手順2の操作をした後に、鍵盤を弾かないで④を押し続けると液晶画面に“Song Del?”と表示されますので[+] (はい) を押します。

ソング(内蔵曲)と一緒に演奏して録音する

ソング(内蔵曲)に合わせて演奏して、それを録音することができます。

●鍵盤演奏のほかに以下の操作や設定も記録できます。

音色番号、曲番号、ペダル操作、テンポ、リバーブ設定、コーラス設定、レイヤー設定、スプリット設定、ピッチバンドホイール操作(CTK-5000のみ)

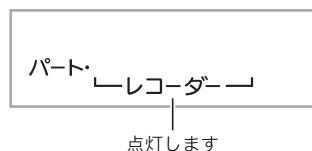
メモ

- ソングと一緒に録音できるのは1曲です。新しく録音すると、前に録音したデータは消去されます。

1. ⑬を押します。

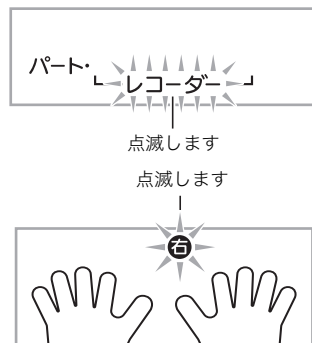
2. ④を押します。

再生の待機状態になります。



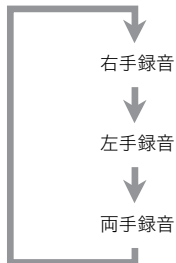
3. もう一度④を押します。

録音の待機状態になります。

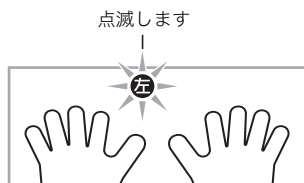


4. ⑰(テンキー)を押して、録音したいソングの曲番号を入力します。

5. **12**を押して録音するパートを選びます。



例: 左手パートを選んだ場合



- 音色やテンポも設定しておきます。

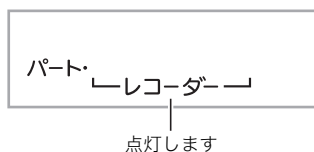
6. **11**を押すと、ソングの再生と録音が始まります。

再生に合わせて演奏しましょう。

- 録音を途中で止めるには**11**を押します。

7. ソングの再生が終了すると、録音も自動的に終了します。

再生の待機状態になります。



8. **11**を押します。

録音した演奏の再生が始まります。

- **11**を押すごとに再生と停止を繰り返します。

9. 通常の状態に戻すには、**4**を2回押します。



■録音した曲の消去

手順2の操作をした後に、**4**を押し続けると液晶画面に“Song Del?”と表示されますので[+] (はい)を押します。

録音したデータを外部機器に保存する

録音したデータをSDメモリーカードやパソコンに保存できます。SDメモリーカードを使うと、一般的な形式のMIDIファイル(SMFフォーマット0)に変換することもできます。

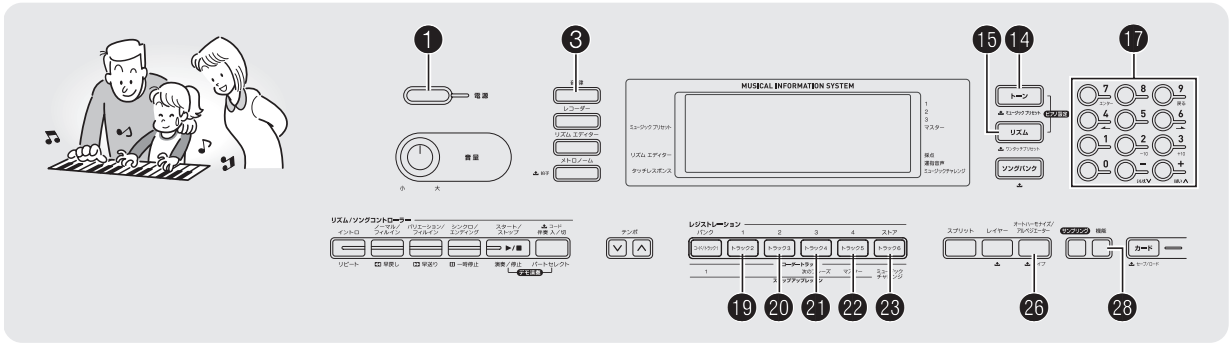
■SDメモリーカードに保存(CTK-5000のみ)

55ページをご参照ください。

■パソコンで保存

61ページをご参照ください。

本機をさらに使いこなすには



鍵盤の音律(スケール)を変えてみる

鍵盤の音律(スケール)を設定して通常の音律(12平均律)以外の音律を使う音楽(インド音楽、アラビア音楽、古典クラシックなど)の演奏ができます。

スケールを編集・設定する(スケールエディター)(CTX-5000のみ)

以下の4種類の 방법으로、鍵盤の音律(スケール)を変えることができます。

	表示	内容
スケール ファイン チューン	“Fin” “ScalMode”	チューニング値を1セント単位で+99~-99セントまで設定できます。
クォーター トーン	“qUA” “ScalMode”	チューニング値を-50セントに下げて設定できます(アラビア音楽では“ミ”や“シ”を下げて演奏されます)。
プリセット	“PrE” “ScalMode”	本機にあらかじめセットされているスケールを選んで設定できます。
平均律	“EqU” “ScalMode”	一般的な音律(12平均律)に設定します。

1. ⑮を押します。
2. ③と⑳を同時に押します。



3. ⑰(テンキー)の[-]または[+]を押して、編集方法を選びます。

- 編集方法の画面は、しばらく操作しないと元の画面に戻ります。

4. ③を押します。
以下の編集ができます。

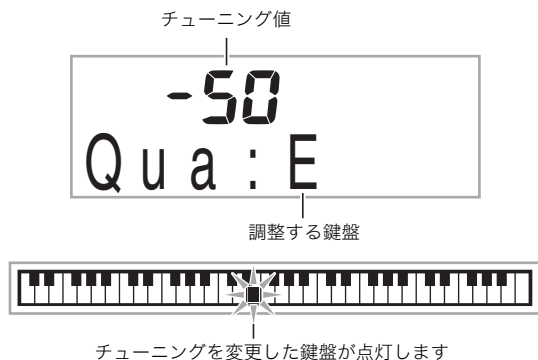
■スケールファインチューン

1. ピッチを変えたい鍵盤を押してから、⑰(テンキー)の[-]または[+]を押してチューニング値を設定します。
2. 適正な値にしたら、③を押して設定を終了します。
設定したスケールで演奏できるようになります。



■クォータートーン

1. ピッチを変えたい鍵盤を押してから、**17** (テンキー)の[-]を押すと、その鍵盤のチューニングが50セント下がります([+]を押すと元のチューニングに戻ります)。
2. **6**を押して設定を終了します。
設定したスケールで演奏できるようになります。

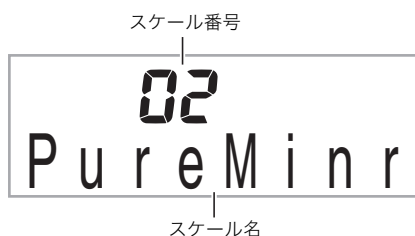


📌メモ

- スケールエディター機能(47ページ)を使わずに、簡単にクォータートーンを設定することもできます。**6**を押しながら設定したい鍵盤を押すと、チューニングが50セント下がります。すでに50セント下がっている鍵盤でこの操作をすると、チューニングが50セント上がります(元に戻ります)。

■プリセット

1. **17** (テンキー)の[-]または[+]を押して、設定するスケールを選びます。
 - スケールを選んだら、次にルートキー(C~B)にしたい鍵盤を押して、ルートキーを設定します。
2. **6**を押して設定を終了します。
設定したスケールで演奏できるようになります。



番号	スケール名	表示
01	純正律長調	PureMajr
02	純正律短調	PureMinr
03	ピタゴラス音律	Pythagor
04	キルンベルガー第三法	Kirnbrg3
05	ヴェルクマイスター 第1技法第3法	Wercmeis
06	ミーントーン(中全音律)	MeanTone
07	ラスト(Rast)	Rast
08	バヤティ(Bayati)	Bayati
09	ヒジャーズ(Hijaz)	Hijaz
10	サバ(Saba)	Saba
11	ダシュティ(Dashti)	Dashti
12	チャハルガー(Chahargah)	Chaharga
13	セガー(Segah)	Segah
14	グジャリ・トーディ(Gurjari Todi)	GujrTodi
15	チャンドラコウンス (Chandrakauns)	Cndrkuns
16	チャルケシ(Charukeshi)	Carukesi

■平均律

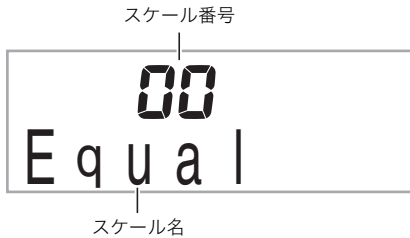
一般的な音律(12平均律)で演奏できるようになります。



プリセットスケールを選ぶ(CTK-4000のみ)

一般的な平均律を含む17種類のプリセットスケールから、好きなスケールを選ぶことができます。

1. **15**を押します。
2. **9**を押します。



3. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、設定するスケールを選びます。
 - スケールを選んだら、次にルートキー(C~B)にしたい鍵盤を押して、ルートキーを設定します。
 - 選べるプリセットスケールの種類は48ページの表の16種類に一般的な平均律(番号:00、表示名:Equal)を加えた、計17種類です。

4. **9**を押します。
選んだスケールで演奏できるようになります。

スケールの設定を登録する(CTK-5000のみ)

設定したスケールをユーザースケールとして本機に登録できます。登録したスケールは後から呼び出すことができます。

■登録する

1. **15**を押します。
2. **9**を押します。
3. **23**を押しながら、**19**~**22**のうち登録したいエリアのボタンを押します。

■呼び出す

1. **15**を押します。
2. **9**を押します。
3. **19**~**22**のうち呼び出したいエリアのボタンを押します。

登録したデータを外部機器に保存するには(CTK-5000のみ)

- SDメモリーカード(55ページ)
- パソコン(61ページ)

■ユーザースケールのデータの保持について

乾電池を入れずにACアダプターだけで使用している場合は、ACアダプターの接続が切れると登録したユーザースケールの内容が消去されます。

登録した内容を保つためには

- 乾電池とACアダプターの両方をご使用ください。
- ACアダプターを抜くときは、消耗していない乾電池(使用推奨期限内)を入れておいてください。
- 乾電池交換は、ACアダプターを接続した状態で行ってください。

なお、ACアダプターを差したり抜いたりするときや乾電池を交換するときは、**1**でいったん電源を切ってから行ってください。

設定したスケールで自動伴奏を鳴らしてみる

設定したスケールの音で自動伴奏を鳴らすことができます。

1. **23**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“OTHER”と表示させます(6ページ)。



2. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
3. **17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を押して、液晶画面に“AcompSci”と表示させます。
4. **17**(テンキー)の[+]を押して、オンに設定します。

ミュージックプリセット

さまざまなジャンルや曲の演奏に適した音色番号やリズム番号などをワンタッチで設定します。

- プリセットのリスト(305種類)は、別紙「Appendix」を参照してください。

1. 下記の表示になるまで**14**を押し続けます。



2. **17**(テンキー)を押して、プリセット番号を選びます。

音色やリズムなどの適した設定が呼び出されます。

- 自動伴奏のシンクロスタート待機中になります(36ページ)。
- **14**、**15**、または**16**を押すと、手順1で**14**を押し続ける前の状態に戻ります。

3. 自動伴奏にあわせて曲を弾いてみましょう。

アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす(アルペジエーター)

アルペジエータを使うと鍵盤で押さえている音が、アルペジオ(分散和音)になって自動的に演奏されます。90種類のアルペジオタイプから演奏する曲に合ったアルペジオを選んでみましょう。

メモ

- アルペジエーター機能は、オートハーモナイズ(37ページ)と同じボタン**25**で操作します。2つの機能を同時に使うことはできません。

1. 画面にオートハーモナイズ、またはアルペジエーターのタイプ番号とタイプ名が表示されるまで、**25**を押し続けます。

- しばらく操作をしないと元の表示に戻ります。



2. **17**(テンキー)の[+]または[-]を押して、タイプを選びます。

- タイプ番号001~012はオートハーモナイズ用のタイプですので、ここでは選ばないようにしてください。



オクターブ

1. 押さえている鍵盤の音をそのままアルペジオにします。
2. アルペジオの音域が、1オクターブ広がります。
4. アルペジオの音域が、3オクターブ広がります。

タイプ番号	タイプ名	内容
013~030	Up	上行形
031~048	Down	下降形
049~066	U/D A	上行と下降を交互に繰り返すアルペジオのAタイプ
067~084	U/D B	上行と下降を交互に繰り返すアルペジオのBタイプ
085~102	Random	押さえている鍵盤の音をランダムな順番で鳴らす

3. **23**を押してアルペジエーターをオンにします。
 鍵盤で和音を押さえると、アルペジオが鳴りはじめます。
 • もう一度**23**を押すと、アルペジエーターがオフに戻ります。



メモ

- テンポの変更はメトロノームのテンポを変える操作と同じです(10ページ)。

アルペジオを鳴らし続ける

和音を押さえている指を鍵盤から離れた後も、アルペジオが鳴り続けるようにすることができます。

- 23**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“OTHER”と表示させます(6ページ)。
- 17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。



- 17**(テンキー)の[+]を押して、オンに設定します。

ユーザーソングのデータを消去する

ソング番号153~162に保存したユーザーソングのデータを消去することができます。

- 23**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“DELETE”と表示させます(6ページ)。



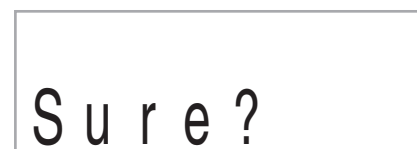
使用しているメモリー量(単位:キロバイト)



- 17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
- 17**(テンキー)の[6](→)を2回押します。



- 17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、消去したいユーザーソングの番号を選びます。
- 17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
消去を確認する画面が表示されます。



- 17**(テンキー)の[+](はい)を押してください。
消去が終了する画面上に“Complete”が表示され、手順2の画面に戻ります。
 - キャンセルするときは[+](はい)を押さなくて、[-](いいえ)または[9](戻る)を押してください。

本機に記録されているデータをまとめて消去する

サンプリングした音やユーザーソングなど本機で保存されているデータを、まとめて消去することができます。

🚫 重要

- この消去を実行すると、保護されているサンプリング音色のデータ(21ページ)も消去されます。大切なデータはメモリーカード(53ページ)やパソコン(59ページ)に保存しておかれることをお勧めします。
- 録音した曲(43ページ)のデータは消去できません。

1. **Ⓜ**を押して、**Ⓜ**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“DELETE”と表示させます(6ページ)。



点滅します

使用しているメモリー量(単位:キロバイト)

150 170

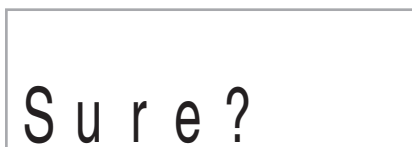
メモリーの残り量

2. **Ⓜ**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
3. **Ⓜ**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を押して、“All Data”と表示させます。



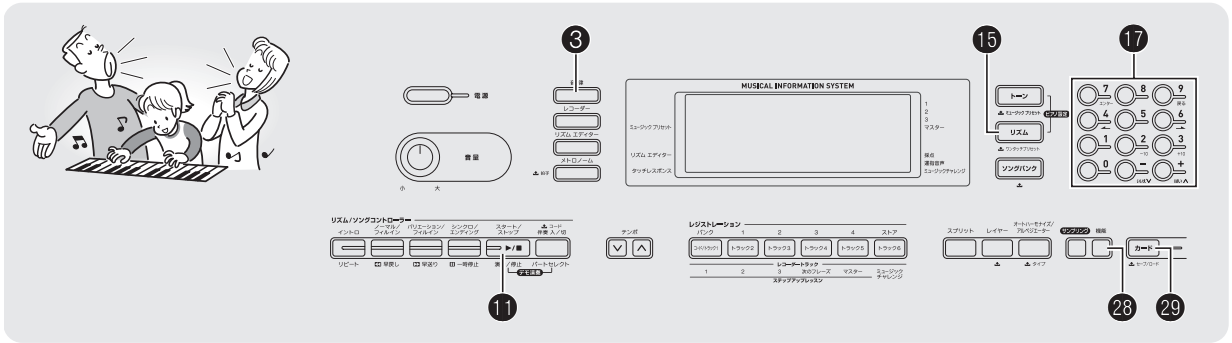
点滅します

4. **Ⓜ**(テンキー)の[7](エンター)を押します。消去を確認する画面が表示されます。



5. **Ⓜ**(テンキー)の[+](はい)を押してください。消去が終了する画面上に“Complete”が表示され、手順2の画面に戻ります。
 - キャンセルするときは[+](はい)を押さずに、[-](いいえ)または[9](戻る)を押してください。

メモリーカードを使用する(CTK-5000のみ)



サンプリングした音や録音した曲などの本機のデータを、市販のSDメモリーカードに保存することができます。また一般的な楽曲MIDIファイル(SMF)やカシオのホームページからダウンロードしたソングや自動伴奏のデータを、パソコンからSDメモリーカード経由で本機に読み込んで、ソングバンク曲や自動伴奏を増やすこともできます。



●容量2GB以下のSDメモリーカードをご使用ください。
容量が2GBを超えるSDメモリーカードや、他の規格のメモリーカードはご使用になれません。

■保存や読み込みができるデータの種類の種類

データの種類の種類	内容	ファイルの拡張子
サンプリング音色 (16ページ)	サンプリングした音のデータ	TW7 DW7*1
ユーザーリズム (38、62ページ)	編集した(または外部からの)自動伴奏データ	AC7
ユーザーソング (24、62ページ)	外部からのソングデータ(本機からSDメモリーカードへの保存はできません)	CM2 MID*2
録音した曲 (43ページ)	演奏を記録したデータ	SP7 SL7*3
ユーザースケール (47ページ)	編集したスケールのデータ	ST7
レジストレーション (41ページ)	音色やリズムの設定を登録したデータ	RM7
すべてのデータ	上記の全データ	AL7

*1: サンプルドラムセット音色

*2: 一般的なMIDIファイル(SMFフォーマット0、1)

*3: 内蔵曲にあわせて録音したデータ

SDメモリーカードとカードスロットの取り扱い上のご注意

重要

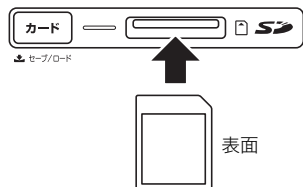
- SDメモリーカードに付属している取扱説明書の注意事項をお守りください。
- SDメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤ってデータを消さないようにしたいときに使用してください。
- 以下のような場所での保管、使用は避けてください。SDメモリーカード上のデータが壊れる場合があります。
 - 高温多湿、腐食性のある場所
 - 強い静電気、電氣的ノイズの発生しやすい場所
- SDメモリーカードを抜き差しするときに、SDメモリーカードの接触面に直接触れないでください。
- データを保存したり読み込んでいるときには、本機を操作したりSDメモリーカードを取り出したりしないでください。SDメモリーカードのデータが壊れたり、カードスロットが故障したりする場合があります。
- カードスロットには、指定のSDメモリーカード以外は決して入れないでください。故障の原因となります。
- 手の指やSDメモリーカードから、静電気がカードスロット部に伝わると、本機が誤動作する場合があります。このような場合は一度本機の電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
- 長時間使用した後、取り出したSDメモリーカードが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。

SDメモリーカードを入れる／取り出す

重要

- SDメモリーカードには、表裏と前後の方向があります。無理に入れようとすると破損する恐れがあります。

- SDメモリーカードの表面を上にして、カードスロット(28)へカチッと音がして止まるまで押し込みます。



- 取り出すときは、SDメモリーカードをさらに押し込みます。

ロックが外れてSDメモリーカードが少し押し出されます。出てきた部分をつまんで引き抜きます。

SDメモリーカードをフォーマットする

重要

- SDメモリーカードを使う際には、まず最初に必ず本機でフォーマットをしてください。
- フォーマットする前に、SDメモリーカードに大切なデータが保存されていないことをご確認ください。
- 本機のフォーマットは、クイックフォーマットで実行します。データを完全に消去するには、パソコンなどの機器で通常のフォーマットを行ってください。

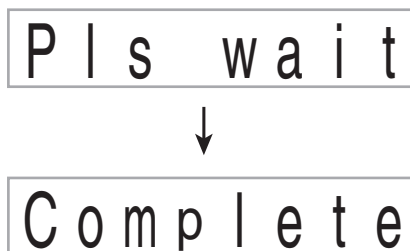
- フォーマットしたいSDメモリーカードを本機のカードスロットに装着します。
 - SDメモリーカードの書き込み禁止スイッチを解除して、書き込み可能な状態にしておいてください。
- 28と29を同時に押します。



- 17(テンキー)の[7](エンター)を押します。フォーマットの確認画面になります。



- 17(テンキー)の[+](はい)を押してください。
 "Pls wait" (実行中)というメッセージが表示されます(この間は、一切本機の操作は行わないでください)。フォーマットが終了すると画面上に"Complete"が表示されます。
 - キャンセルするときは[-](いいえ)または[9](戻る)を押してください。



本機のデータをSDメモリーカードに保存する

本機に記録したデータをSDメモリーカードに保存できます。

1. 保存するデータにより、以下の操作をします。

保存するデータ	操作
サンプリング音色	音色番号671～678のなかから、保存したいデータの番号を選びます(11ページ)。
ユーザーリズム	リズム番号201～210のなかから、保存したいデータの番号を選びます(32ページ)。
録音した曲	保存したい曲を再生待機の状態にします(45ページ)。
ユーザースケール	⑫を押してから、⑬を押します。
レジストレーション すべてのデータ	本機にあらかじめ内蔵されている音色、リズムなどを選びます。

- ユーザーソング(外部機器から読み込んだソングデータ)は保存できません。
- 各データの詳細は、53ページをご参照ください。

2. SDメモリーカードを本機のカードスロットに装着します。

3. ボタンが点灯するまで⑭を押し続けます。

- 操作を中止するときはもう一度⑭を押します。



点滅します

4. 液晶画面に以下の画面が表示されるまで⑰(テンキー)の[4](←)、[6](→)を押します。

- [+]、[-]でも操作できます。

保存するデータ	液晶画面表示
サンプリング音色	"SAV" "Smp Tone" / "Smp Drum"
ユーザーリズム	"SAV" "UserRhy."
録音した曲	"SAV" "Rec.Song"
録音した曲 (SMFフォーマット0 で保存する場合)	"SAV" "SMF 0"
ユーザースケール	"SAV" "ScaleMem"
レジストレーション	"SAV" "Regist."
すべてのデータ	"SAV" "All Data"

ソングバンクの曲とあわせて録音した曲をSMFフォーマット0で保存した場合は、鍵盤で弾いた演奏のデータのみ保存されます。

5. ⑰(テンキー)の[7](エンター)を押します。



点滅します

- 保存するデータのファイル名を入力できます。⑰(テンキー)の[4](←)、[6](→)を押してファイル名(8文字)の変更したい文字を点滅させ[+]、[-]を押します。
- [9](戻る)を押すと、[7](エンター)を押す前の状態に戻ります。

6. ⑰(テンキー)の[7](エンター)を押します。

データがSDメモリーカードに保存されます。



- SDメモリーカードの中に同じファイル名がある場合は、上書きを確認する表示になります。上書きして保存するときは⑰(テンキー)の[+] (はい)を押してください(キャンセルするときは[-] (いいえ)または[9](戻る)を押してください)。



メモ

- 手順5でのファイル名の入力では、以下の文字を入力できません。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y	Z	\$	&	_	'
()	-	^	{	}	@	~	`	

- "~"は本機の液晶画面では、"→"と表示されます。

■SDメモリーカード内のデータ(ファイル)の保存場所について

以上の操作によって、本機のデータがSDメモリーカード内の“MUSICDAT”フォルダの中にファイルとして保存されます。

- “MUSICDAT”フォルダは、本機でSDメモリーカードをフォーマットしたとき(54ページ)に、自動的に作られません。
- “MUSICDAT”フォルダ以外の場所に保存されたファイルは、本機で読み込みや消去、再生ができなくなります。また“MUSICDAT”の中にさらにフォルダを作って、そこにファイルを移動した場合にも、読み込みや消去、再生ができなくなりますのでご注意ください。
- “MUSICDAT”フォルダ内に読み込み、消去や再生ができるファイルが入っていない場合には、読み込みなどの操作の途中で液晶画面に“No File”と表示されます。

SDメモリーカードのデータを本機に読み込む

SDメモリーカードに保存されているデータを本機の保存エリアに読み込みます。

⚠️重要

- SDメモリーカード内のデータ(ファイル)は、必ず“MUSICDAT”フォルダの中に保存してください(左記参照)。

1. 読み込むデータにより、以下の操作をします。

読み込むデータ	操作
サンプリング音色	音色番号671 ~ 678 のなかから、データの読み込み先の番号を選びます(11ページ)。
ユーザーリズム	リズム番号201 ~ 210 のなかから、データの読み込み先の番号を選びます(32ページ)。
ユーザーソング	ソング番号153 ~ 162 のなかから、データの読み込み先の番号を選びます(22ページ)。
録音した曲	データの読み込み先の曲を再生待機の状態にします(45ページ)。
ユーザースケール	⑯を押してから、⑳を押します。
レジストレーション	本機にあらかじめ内蔵されている音色、リズムなどを選びます。
すべてのデータ	

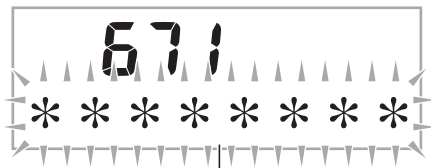
2. SDメモリーカードを本機のカードスロットに装着します。

3. ボタンが点灯するまで㉑を押し続けます。
- 操作を中止するときはもう一度㉑を押します。

4. 液晶画面に以下の画面が表示されるまで⑰(テンキー)の[4](←)、[6](→)を押します。
- [+], [-]でも操作できます。

読み込むデータ	液晶画面表示
サンプリング音色	“Lod” “SmplTone” / “SmplDrum”
ユーザーリズム	“Lod” “UserRhy.”
ユーザーソング	“Lod” “UserSong”
録音した曲	“Lod” “Rec.Song”
ユーザースケール	“Lod” “ScaleMem”
レジストレーション	“Lod” “Regist.”
すべてのデータ	“Lod” “All Data”

5. ⑰(テンキー)の[7](エンター)を押します。



点滅します

- [9](戻る)を押すと、[7](エンター)を押す前の状態に戻ります。

6. ⑰(テンキー)の[-]または、[+]を押して、読み込むデータ(ファイル)を選びます。

7. ⑰(テンキー)の[7](エンター)を押します。

SDメモリーカードのデータが本機に読み込まれます。



- 読み込み先のエリアにすでにデータがある場合は、上書きを確認する表示になります。上書きしてよいときは⑰(テンキー)の[+](はい)を押してください(キャンセルするときは[-](いいえ)または[9](戻る)を押してください)。



SDメモリーカードのデータを消去する

SDメモリーカードに保存されているデータを消去します。

1. 消去するデータにより、以下の操作をします。

消去するデータ	操作
サンプリング音色	音色番号671 ~ 678 のいずれかを選びます(11ページ)。
ユーザーリズム	リズム番号201 ~ 210 のいずれかを選びます(32ページ)。
ユーザーソング	ソング番号153 ~ 162 のいずれかを選びます(22ページ)。
録音した曲	録音の再生待機の状態にします(43ページ)。
ユーザースケール	⑮を押してから、③を押します。
レジストレーション すべてのデータ	本機にあらかじめ内蔵されている音色、リズムなどを選びます。

2. SDメモリーカードを本機のカードスロットに装着します。

3. ボタンが点灯するまで、④を押し続けます。

- 操作を中止するときはもう一度④を押します。

4. 液晶画面に以下の画面が表示されるまで⑰(テンキー)の[4](←)、[6](→)を押します。

- [+], [-]でも操作できます。

消去するデータ	液晶画面表示
サンプリング音色	"dEL" "SmplTone" / "SmplDrum"
ユーザーリズム	"dEL" "UserRhy."
ユーザーソング	"dEL" "UserSong"
録音した曲	"dEL" "Rec.Song"
ユーザースケール	"dEL" "ScaleMem"
レジストレーション	"dEL" "Regist."
すべてのデータ	"dEL" "All Data"

5. ⑰(テンキー)の[7](エンター)を押します。

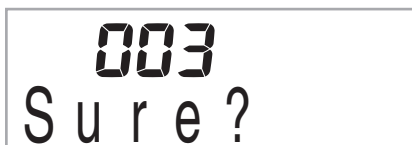


点滅します

- [9](戻る)を押すと、[7](エンター)を押す前の状態に戻ります。

6. **17**(テンキー)の[-]または,[+]を押して、消去するデータ(ファイル)番号を選びます。

7. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
• 消去の確認画面になります。



8. **17**(テンキー)の[+](はい)を押してください。
• キャンセルするときは[-](いいえ)または[9](戻る)を押してください。



SDメモリーカードのソングデータを再生する

SDメモリーカードに保存されているユーザーソングデータ(53ページ)を本機で再生したり、レッスンすることができます。

⚠️重要

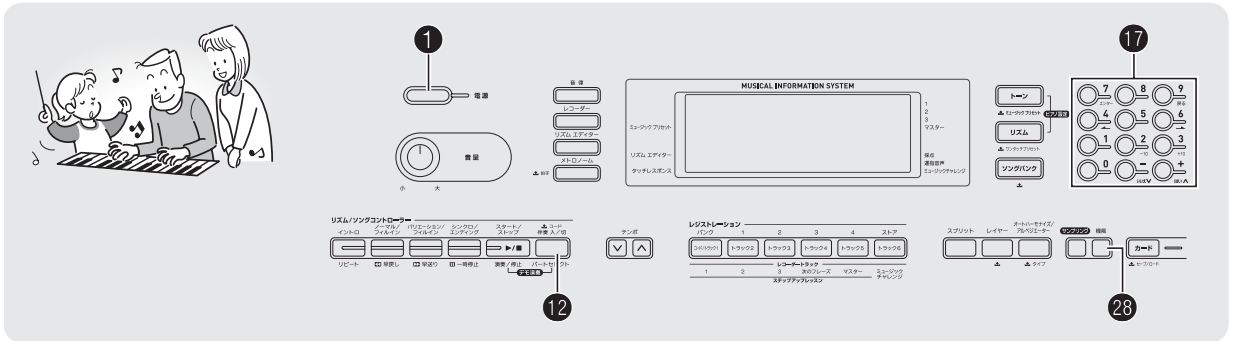
• SDメモリーカード内のデータ(ファイル)は、必ず“MUSICDAT”フォルダの中に保存してください(56ページ)。

1. SDメモリーカードを本機のカードスロットに装着します。
2. **29**を押します。
SDメモリーカードに入っているファイルの曲番号と曲名が液晶画面に表示されています。
3. **17**(テンキー)で再生する曲を選びます。
4. **11**を押します。
再生がはじまります。
• **11**を押すごとに再生と停止を繰り返します。

SDメモリーカードのエラー表示について

SDメモリーカードをご使用中に、液晶画面に“Err”と表示されたときは、68ページをご参照ください。

他の外部機器と接続する



パソコンとの接続

この楽器とパソコンを接続して演奏情報(MIDIデータ)の送受信ができます。楽器演奏をパソコンの音楽ソフトへ送って記録したり、パソコンからこの楽器へデータを送って音を鳴らすことができます。

パソコンの動作環境

MIDIデータを送受信するために必要なパソコン環境は下記のとおりです。お手持ちのパソコン環境を必ず事前にご確認ください。

- 対応OS
 - Windows® XP(SP2以降)*1
 - Windows Vista® *2
 - Mac OS® X(10.3.9, 10.4.11以降、10.5.2以降)
- *1: Windows XP Home Edition
Windows XP Professional (32bit版)
- *2: Windows Vista (32bit版)

重要

- 上記の対応OS以外のパソコンを接続すると、パソコンが故障する場合があります。絶対に接続しないでください。

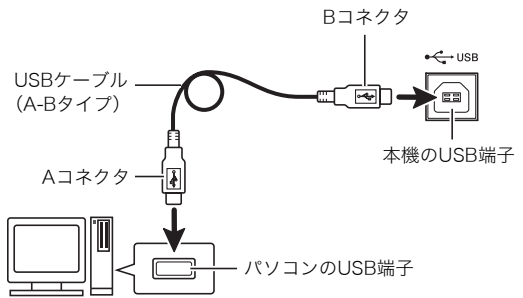
接続方法

重要

- 正しい手順で接続しないとデータの送受信ができなくなる場合があります。必ず下記の手順に従って接続してください。

1. 本機の電源を切り、パソコンを起動させておきます。
 - パソコンの音楽ソフトは起動させないでください。

2. 市販のUSBケーブルで、パソコンと本機を接続します。



3. 本機の電源を入れます。
 - 初めての接続では、データを送受信するために必要なドライバが自動でパソコンにインストールされます。

4. パソコンの音楽ソフトを起動させます。

5. パソコンの音楽ソフトの設定で、MIDIデバイスとして下記のいずれかを選びます。
 - CASIO USB-MIDI: (Windows Vista, Mac OS Xの場合)
 - USB オーディオ デバイス: (Windows XPの場合)
 - MIDIデバイスの選択方法については、お使いの音楽ソフトのマニュアルをご覧ください。

重要

- パソコンの音楽ソフトを起動させる前に、必ず本機の電源を入れておいてください。

メモ

- 1回接続に成功した後は、USBケーブルをつないだままでパソコンや本機の電源を入れなおすことができます。
- 本機はGM(General MIDI Level 1)に準拠しています。
- 本機のMIDIデータ送受信の詳しい仕様や、接続についての最新のサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。
<http://casio.jp/support/emi/>

各種MIDI設定

キーボードチャンネル

キーボードチャンネルとは、鍵盤演奏のデータをパソコンへ送信するチャンネルのことです。本機の鍵盤演奏のデータをパソコンに送信するチャンネルを選びます。

• キーボードチャンネルの設定範囲は01~16です。

1. **23**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“MIDI”と表示させます(6ページ)。



2. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。



3. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、チャンネルを変えます。

ナビゲートチャンネル

パソコンから送られてきた曲の音符情報のなかで、特定のチャンネル(パート)の音だけを画面の表示でガイドさせることができます。このチャンネルのことをナビゲートチャンネルといいます。

■ナビゲートチャンネルを設定する

この楽器では、01~16チャンネルの中から、隣りあった2つのチャンネル(例:05と06)をナビゲートチャンネルとして設定できます。番号の小さい方のチャンネルをナビゲート(左)チャンネル、番号の大きい方のチャンネルをナビゲート(右)チャンネルといいます。ナビゲート(右)チャンネルを設定すると、自動的にナビゲート(左)チャンネルも設定されます。

1. **23**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“MIDI”と表示させます(6ページ)。
2. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。

3. **17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Navi. Ch”と表示させます。



4. **17**(テンキー)の[-]または[+]を押して、ナビゲート(右)チャンネルを設定します。
ナビゲート(右)チャンネルの番号より1つ小さい番号のチャンネルが、自動でナビゲート(左)チャンネルに設定されます。

■ナビゲートチャンネルの音を消して鍵盤で演奏する
ナビゲートチャンネルとして設定した2つのチャンネルのうちどちらか片方、または両方のチャンネルの音を消して、自分で弾くことができます。

1. **12**を押して、音を消したいチャンネルを選びます。
12を押すたびに、下表の(1)から(4)の状態が順に切り替わります。
 - 音を消したチャンネルのパートと同じ音色で鍵盤が弾けるようになります。両方のチャンネルとも音を消した場合(下表の(3))は、ナビゲート(右)チャンネルの音色になります。

選ばれたチャンネルが点灯します



	ナビゲート(左)チャンネル		ナビゲート(右)チャンネル	
	発音	画面のガイド	発音	画面のガイド
(1)右マークのみ点灯時	○	×	×	○
(2)左マークのみ点灯時	×	○	○	×
(3)左右両マーク点灯時	×	○	×	○
(4)左右両マーク消灯時	○	○	○	○

ローカルコントロール

パソコンとデータを送受信している際に、弾いている鍵盤の音をこの楽器から出したい場合があります。ローカルコントロールの設定をオフにすれば弾いている鍵盤の音を消すことができます。

1. **23**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“MIDI”と表示させます(6ページ)。
2. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
3. **17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Local”と表示させます。



4. **17**(テンキー)の[-]を押して、オフに設定します。

アカンプアウト

この設定をオンにすると、自動伴奏の演奏データをパソコンに送信します。

1. **23**を押して、**17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“MIDI”と表示させます(6ページ)。
2. **17**(テンキー)の[7](エンター)を押します。
3. **17**(テンキー)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“AcompOut”と表示させます。



4. **17**(テンキー)の[+]を押して、オンに設定します。

本機のデータをパソコンに保存する/ 本機のソングや自動伴奏を増やす

サンプリングした音や録音した曲などのデータをパソコンに転送して保存したり、そのデータをいつでも本機に転送してもとすることができます。また一般的な楽曲MIDIファイル(SMF)や、カシオのホームページからダウンロードしたソングや自動伴奏のデータを本機に転送すれば、ソングバンク曲や自動伴奏を増やすこともできます。

データの転送には、専用のアプリケーションソフト(データマネージャー)が必要です。

転送できるデータの種類について

転送できるデータの種類は、SDメモリーカードで保存、読み込みできるデータの種類と同じです(53ページ)。ただし録音した曲のデータを、SMFに変換して転送することは、CTK-5000でのSDメモリーカードへの転送時にのみ可能です。またユーザースケールのデータも、CTK-5000でのみ保存や読み込みができます。

データマネージャーをダウンロードする

1. 以下のホームページから、データマネージャーと操作マニュアルをダウンロードして、お手持ちのパソコンに保存します。

<http://casio.jp/support/emi/>

- 本機の製品紹介のページにデータマネージャーのページへのリンクが貼られています。製品紹介のページが見つからない場合は、上記ホームページの検索フォームに本機の製品名を入力して検索してください。
 - ダウンロードする前に、データマネージャーを使用するために必要なパソコン環境などについて、必ずご確認ください。
 - ホームページの内容は、予告なく変更される場合があります。
2. 手順1でダウンロードした操作マニュアルに従って、データマネージャーをインストールしてから、データ転送を行ってください。

■ カシオホームページのソングデータのご利用について

CASIO Music Site (<http://music.casio.co.jp/>)の以下のサービスから、ソングデータをダウンロードして本機に転送することができます。

- インターネット・ソングバンク
- インターネット楽譜ナビ

■ カシオホームページの自動伴奏データのご利用について

CASIO Music Site (<http://music.casio.co.jp/>)の以下のサービスから、本機以外の製品の自動伴奏データをダウンロードして、本機に転送することができます。

Internet Data Expansion System
(インターネット・データ・エクспанション・システム)

メモ

● 本機専用のデータではないため、あらかじめ本機に内蔵されている自動伴奏とは異なる鳴り方をすることがあります。

■ 本機に保存したデータの保持について

乾電池を入れずにACアダプターだけで使用している場合は、ACアダプターの接続が切れると本機に保存したデータが消失されます。

保存した内容を保つためには

- 乾電池とACアダプターの両方をご使用ください。
- ACアダプターを抜くときは、消耗していない乾電池(使用推奨期限内)を入れておいてください。
- 乾電池交換は、ACアダプターを接続した状態で行ってください。

なお、ACアダプターを差したり抜いたりするときや乾電池を交換するときは、①でいったん電源を切ってから行ってください。

オーディオ機器とつなぐ

市販のステレオやアンプに接続して大きな音量で鳴らしたり、録音機器に接続して本機での演奏を録音したりできます。また、携帯オーディオプレーヤーなどの音を本機で鳴らしながら、それをバックに演奏して楽しむことができます。

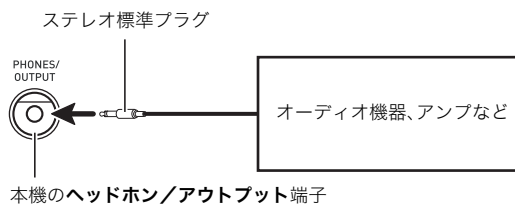
■ 本機の音を外部機器で鳴らす

接続には市販の接続コードが使用できます。

重要

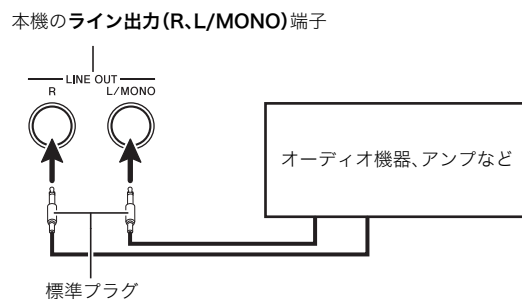
- 接続するときはすべての外部機器の電源を切ってください。また、電源のオンオフ操作のときは本機と外部機器の音量設定を小さめに絞っておいてください。
- 接続した後は本機、外部機器の順番で電源を入れてください。
- 外部機器で鳴らした本機の音が歪んだ音で聴こえる場合は、本機の音量を下げてください。

■ CTK-4000

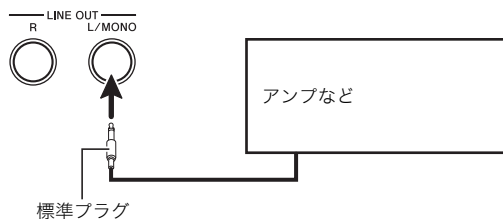


■ CTK-5000

- コード二本で接続する場合(ステレオ出力)



- コード一本で接続する場合(モノラル出力)



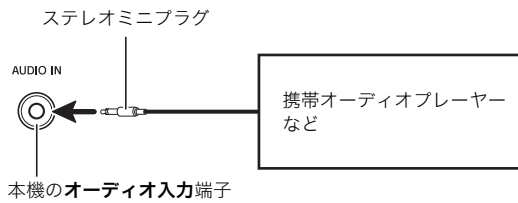
外部機器の音を本機で鳴らす

接続には市販の接続コードが使用できます。

- 片側がステレオミニプラグ、もう一方は外部機器の出力端子に接続できるものをご用意ください。

重要

- 接続するときは本機の電源を切ってください。また、電源のオンオフ操作のときは本機と外部機器の音量設定を小さめに絞っておいてください。
- 接続した後は外部機器、本機の順番で電源を入れてください。
- 本機で鳴らした外部機器の音が歪んだ音で聴こえる場合は、外部機器の音量を下げてください。



困ったときは

症状	対策
付属品	
梱包箱のなかに付属品が見つからない。	緩衝材の中も探してみる。
電源	
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> ACアダプターの接続状態や、電池の装着方向が正しいか確認する(7ページ)。 新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(7ページ)。
大きな音を出すと、突然電源が切れる。	新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(7ページ)。
数分ほど弾かないでいると、突然電源が切れる。	オートパワーオフ機能を解除する(8ページ)。
表示	
液晶画面の表示が暗くなったり、ちらつくようになった。	新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(7ページ)。
液晶画面の鍵盤や楽譜表示で、音の表示が点灯したままになった。	ステップアップレッスンで、次の音の鍵盤が弾かれるのを待っている状態です。レッスンを停止させると、音の表示も消灯します(27ページ)。
液晶画面の表示が一定の方向からしか見えない。	本機の製造上の制約等によるもので、故障ではありません。
音	
鍵盤を弾いても音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> 音量の設定(8ページ)を変えてみる。 本機背面の⑫(CTK-4000:ヘッドホン/アウトプット端子)(CTK-5000:ヘッドホン端子)にプラグが挿さっていないか確認する。 音色番号の671~678(CTK-4000では571~578)は、サンプリングした音が記録されていない場合には鍵盤を押しても音が鳴りません(16ページ)。 本機の電源を入れなおしてみる(8ページ)(各種設定は初期化されます)。
左側の鍵盤だけ音が出ない(あるいは通常と違う音が鳴る)。	⑫を押して、自動伴奏のコード入力ができる状態を解除する(33ページ)。
自動伴奏をスタートしても音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> リズム番号の190と192~200(CTK-4000:170、172~180)は、コードを入力しないと音が鳴らないリズムパターンです。コードを入力してみてください(33ページ)。 伴奏の音量の設定(36ページ)を確認して調整する。 リズム番号の201~210(CTK-4000では181~190)は、編集したリズムが保存されていない場合には⑩を押しても自動伴奏がスタートしません(38ページ)。 本機の電源を入れなおしてみる(8ページ)(各種設定は初期化されます)。
ソングの自動演奏をスタートしても音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ボタンを押してからソングが始まるまでに少し時間がかかります。ソングが始まるまで少しお待ちください。 曲の音量の設定(24ページ)を確認して調整する。 ソング番号の153~162は、ソングデータが保存されていない場合には⑩を押してもソングがスタートしません(24ページ)。 本機の電源を入れなおしてみる(8ページ)(各種設定は初期化されます)。
メトロノームの音が鳴らない。	<ul style="list-style-type: none"> 伴奏の音量の設定(36ページ)を確認して調整する。 曲の音量の設定(24ページ)を確認して調整する。 本機の電源を入れなおしてみる(8ページ)(各種設定は初期化されます)。
音が鳴りっぱなしで止まらなくなった。	<ul style="list-style-type: none"> 本機の電源を入れなおしてみる(8ページ)(各種設定は初期化されます)。 新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(7ページ)。
鳴らしている音が途切れてしまう。	同時に鳴っている音の数が48(音色によっては24)を超えると発生します。故障ではありません(別紙「Appendix」の「音色リスト」の「最大同時発音数」をご参照ください)。

症状	対策
音量や音質が変わってしまった。	<ul style="list-style-type: none"> 音量の設定(8ページ)を変えてみる。 本機の電源を入れなおしてみる(8ページ)(各種設定は初期化されます)。 新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(7ページ)。
鍵盤を弾くタッチを変えても、出る音の音量が変わらない。	<ul style="list-style-type: none"> タッチレスポンスの設定(9ページ)を変えてみる。 本機の電源を入れなおしてみる(8ページ)(各種設定は初期化されます)。
特定の鍵盤の音量や音質が、他の鍵域の鍵盤と若干違って聴こえる。	本機のシステムの制約等によるもので、故障ではありません。
端の方の鍵盤を弾いていると、同じオクターブの音が繰り返されるように聴こえる音色がある。	本機のシステムの制約等によるもので、故障ではありません。
音の高さが他の楽器とあわない(あるいは不自然に聴こえる)。	<ul style="list-style-type: none"> トランスポーズ(14ページ)やチューニング(14ページ)の設定を確認して調整する。 本機の電源を入れなおしてみる(8ページ)(各種設定は初期化されます)。
音の響きが急に変わったように感じる。	<ul style="list-style-type: none"> リバーブの設定(13ページ)を確認して調整する。 本機の電源を入れなおしてみる(8ページ)(各種設定は初期化されます)。
操作	
ソングの早送りや早戻しをすると、1小節ごとではなく何小節もまとめて移動してしまう。	ソングの停止中、またはステップアップレッスン中に早送りや早戻しをすると、フレーズ単位で移動します(23ページ)。
電源を入れなおすと、音色、リズムなどの設定が元に戻ってしまう。	本機では、電源を入れ直すと各種設定が初期化されます(8ページ)。いくつかの設定はレジストレーションに登録して保存することができます(41ページ)。
パソコンとの接続	
MIDIデータの送受信ができない。	<ul style="list-style-type: none"> 本機とパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか、あるいはパソコンの音楽ソフトの設定でデバイスが正しく選ばれているか確認する(59ページ)。 本機の電源を切ってパソコンの音楽ソフトを終了させてから、本機の電源を入れてパソコンの音楽ソフトを再起動させてみる。

製品仕様

型式	CTK-4000/CTK-5000
鍵盤 タッチレスポンス機能	61鍵盤 2種類、オフ
同時発音数	最大48音(一部音色では最大24音)
音色機能 プリセット音色 サンプリング音色 その他	CTK-4000:570音色 CTK-5000:670音色 最大8音色(メロディーサンプリング:5、ドラムサンプリング:3) [※] 記録時間:最長10秒 レイヤー、スプリット
リバーブ機能	10種類、オフ
コーラス機能	5種類、オフ
メトロノーム機能 拍子 テンポ	0、2～6拍子 30～255
ソングバンク機能 プリセットソング ユーザーソング	152曲 最大10曲 [※]
ステップアップレッスン機能 レッスンの種類 レッスンパート その他	4種類(レッスン1/2/3、自動ステップアップレッスン) 左手、右手、両手 リピート、運指音声、弾くべき音のガイド、採点
ミュージックチャレンジ機能	20音符
自動伴奏機能 プリセットリズム ユーザーリズム	CTK-4000:180種類 CTK-5000:200種類 最大10種類(自動伴奏編集機能) [※]
レジストレーション機能	最大32セット(4セット×8バンク)
録音機能 鍵盤演奏録音 ソングバンク曲にあわせたの録音 メモリー容量	リアルタイム録音、再生 5曲、6トラック 1曲(左手、右手、両手) 約12,000音符(6曲合計)
その他の機能 トランスポーズ オクターブシフト チューニング スケール ミュージック プリセット ワンタッチプリセット オートハーモナイズ アルペジエーター	±1オクターブ(-12～0～+12半音) アッパー/ロワー、±2オクターブ A4=約440Hz ±100セント スケールファインチューン(CTK-5000のみ)、クォータートーン(CTK-5000のみ)、プリセットスケール 305種類 CTK-4000:180種類 CTK-5000:200種類 12種類 90種類
MIDI機能	16chマルチティンバー受信、GMレベル1準拠
ミュージカルインフォメーション機能	音色・自動伴奏・ソングバンクの番号および名称、五線譜、運指、ペダル、テンポ、小節数・拍子、コード名等

ピッチベンドホイール(CTK-5000のみ)	
ピッチベンドレンジ	0~12半音
SDメモリーカード(CTK-5000のみ)	
使用できるSDメモリーカード	2GB以下
機能	SMF再生、ファイルの保存/読み込み/消去、カードフォーマット
端子	
USB端子	タイプB
サスティン/アサイナブル端子	標準ジャック(サスティン、ソステヌート、ソフト、スタート/ストップ)
ヘッドホン/アウトプット端子 (CTK-4000)	ステレオ標準ジャック 出カインピーダンス:200Ω、出力電圧:4.5V(RMS)MAX
ヘッドホン端子(CTK-5000)	ステレオ標準ジャック
ライン出力端子(R, L/MONO) (CTK-5000のみ)	標準ジャック×2 出カインピーダンス:2.3kΩ、出力電圧:1.5V(RMS)MAX
オーディオ入力端子	ステレオミニジャック 入カインピーダンス:9kΩ、入力感度:200mV
電源端子	CTK-4000:DC9V CTK-5000:DC12V
電源	2電源方式
電池	単1形マンガン乾電池又は単1形アルカリ乾電池6本使用 電池持続時間:CTK-4000:約5時間(マンガン乾電池使用時) CTK-5000:約4時間(アルカリ乾電池使用時)
家庭用AC100V電源	CTK-4000:ACアダプターAD-5JL使用 CTK-5000:ACアダプターAD-12MLA使用
オートパワーオフ機能	約6分後(乾電池使用時)、キャンセル可能
スピーカー	CTK-4000:12cm×2(出力:2.5W+2.5W) CTK-5000:12cm×2+3cm×2(出力:6.0W+6.0W)
消費電力	CTK-4000:9V --- 7.7W CTK-5000:12V --- 18W
サイズ幅	幅95.0×奥行37.6×高さ13.0cm
質量	CTK-4000:約4.6kg(乾電池含まず) CTK-5000:約5.4kg(乾電池含まず)

- 改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更することがあります。
- ※これらのデータ(サンプリング音色、ユーザーソング、ユーザーリズム)は、共通のメモリーエリアに保存されます。
- メモリー総容量:約320キロバイト(1キロバイト=1024バイト)

エラーメッセージ一覧

液晶画面の表示	原因	対策
Err CardFull	SDメモリーカードの空き領域が足りない。	<ul style="list-style-type: none"> SDメモリーカードに保存されているファイルを消去して、空き領域を増やす(57ページ)。 別のSDメモリーカードを使う。
Err Card R/W	SDメモリーカードが壊れている。	別のSDメモリーカードを使う。
Err Convert	録音した曲のデータをSMFに変換してSDメモリーカードに保存するために必要な、本機のメモリー空き領域が不足している。	本機に保存している以下のユーザーデータのいずれかを消去して、メモリー空き領域を増やす。 サンプリング音(16ページ)、ユーザーリズム(38ページ)、ユーザーソング(24ページ)
Err Exist	サンプルドラムセット音色のコピー(19ページ)で、コピー先として選んだ鍵盤に他のサンプリング音が記録されているため、コピーすることができない。	<ul style="list-style-type: none"> 記録されているサンプリング音を消去する(19ページ)。 サンプリング音が記録されていない他の鍵盤をコピー先として選ぶ。
Err Format	<ol style="list-style-type: none"> SDメモリーカードのフォーマットが本機に適合していない。 SDメモリーカードが壊れている。 	<ol style="list-style-type: none"> 本機でSDメモリーカードをフォーマットする(54ページ)。 別のSDメモリーカードを使う。
Err Limit	ドラムサンプリングを開始する前に選んだ音色番号に、すでに8種類(記録できる限界数)のサンプリング音が記録されているため、これ以上記録することができない。	<ul style="list-style-type: none"> 記録されているサンプリング音のいずれかを消去する(19ページ)。 8種類のサンプリング音まで記録されていない他の音色番号を選ぶ(18ページ)。
Err Mem Full	<ol style="list-style-type: none"> SDメモリーカードのソングデータを再生するために必要な、本機のメモリー空き領域が不足している。 サンプリング音や自動伴奏を編集するために必要な、本機のメモリー空き領域が不足している。 	本機に保存している以下のユーザーデータのいずれかを消去して、メモリー空き領域を増やす。 サンプリング音(16ページ)、ユーザーリズム(38ページ)、ユーザーソング(24ページ)
Err No Card	<ol style="list-style-type: none"> SDメモリーカードがカードスロットに正しくセットされていない。 操作の途中でSDメモリーカードが抜き差しされた。 	<ol style="list-style-type: none"> SDメモリーカードをカードスロットに正しくセットする(54ページ)。 操作の途中でSDメモリーカードを動かさない。
Err No Data	本機で選んだユーザーエリア(音色、リズム、ソング番号など)にデータが入っていない。	データが保存されている本機のユーザーエリアを選ぶ。
Err No File	SDメモリーカード内に“MUSICDAT”フォルダが存在しない。	<ul style="list-style-type: none"> パソコンでSDメモリーカード内に“MUSICDAT”フォルダを作成する(56ページ)。 SDメモリーカードを本機でフォーマットする(54ページ)。
Err NotSMF01	SMFフォーマット2のソングデータを再生しようとした。	本機で再生できるSMFのフォーマットは、0または1です。
Err Protect	<ol style="list-style-type: none"> SDメモリーカードが書き込み禁止になっている。 サンプリング音色がプロテクトされている。 	<ol style="list-style-type: none"> SDメモリーカードのプロテクトスイッチを調整して書き込みできるようにする。 サンプリング音色のプロテクトを解除して、上書き保存または消去できるようにする。
Err ReadOnly	SDメモリーカードに保存されている読み込み専用ファイルと同じ名前、データを保存しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 別の名前に変えて保存する。 SDメモリーカードのファイルの読み込み専用属性をはずして、上書き保存する。 別のSDメモリーカードを使う。
Err SizeOver	<ol style="list-style-type: none"> SDメモリーカードのソングデータのサイズが大きすぎて、本機で再生できない。 編集しようとしている自動伴奏の伴奏パターンや楽器パートのデータサイズが大きすぎて、編集できない。 	<ol style="list-style-type: none"> 本機では最大で約320キロバイトのソングデータまで再生できます。 別の伴奏パターンや楽器パートを選ぶ。
Err WrongDat	<ol style="list-style-type: none"> SDメモリーカードのデータが壊れている。 SDメモリーカードのデータが本機で操作できない内容になっている。 	—

ソングリスト

ソングバンク

世界の曲	
001	きらきら星
002	ちょうちょう
003	ロング・ロング・アゴー
004	オン・トップ・オブ・オールド・スモーキー
005	さくら さくら
006	聖者の行進
007	アメイジング・グレイス
008	ほたるの光
009	ぶんぶんぶん
010	かわいいオーガスチン
011	こげよマイケル
012	ダニー・ボーイ
013	マイ・ボニー
014	埴生の宿
015	オーラ・リー
016	峠の我が家
017	アロハ・オエ
018	サンタ・ルチア
019	ふるさと
020	グリーンズリーブス
021	ジェリコの戦い
022	パン屋さん
023	ロンドン橋
024	大きな栗の木の下で
025	森のくまさん
026	大きな古時計
027	アニー・ローリー
028	夢路より
029	しあわせなら手をたたこう
030	愛しのクレメンティン
031	茶色のこびん
032	朝日のあたる家
033	黄色いリボン
034	アルプス一万尺
035	ケンタッキーの我が家
036	森へ行きましょう
037	トロイカ
038	フルツィング・マチルダ
039	アビニョンの橋で
040	線路は続くよどこまでも
041	おお スザンナ
042	草競馬
043	金髪のジェニー
044	わらの中の七面鳥
045	さらばジャマイカ
イベント	
046	きよしこの夜
047	おめでとウクリスマス
048	ジングル・ベル
049	もろびとこぞりて
050	もみの木
ピアノ/クラシック	
051	メリーさんのひつじ
052	白鳥「動物の謝肉祭」より
053	ジュ・トゥ・ヴ
054	ソナタ 作品13 「悲愴」第2楽章
055	野ばら
056	G線上のアリア

057	春「四季」より
058	ハバネラ 歌劇「カルメン」より
059	乾杯の歌 歌劇「椿姫」より
060	ハンガリー舞曲 第5番
061	ト長調のメヌエット
062	ニ長調のミュゼット
063	ガボット (ゴセック)
064	アラベスク (ブルクミュラー)
065	チョップスティックス
066	ひいらぎかざらう
067	喜びの歌
068	アヴェ・マリア (グノー)
069	ソナチネ 作品36の1 第1楽章
070	プレリュード 作品28の7 (ショパン)
071	夢
072	ジムノペディ 第1番
073	家路「新世界から」より
074	エリーゼのために
075	トルコ行進曲 (モーツァルト)
076	ソナタ 作品27の2 「月光」第1楽章
077	別れの曲
078	エンターティナー
079	結婚行進曲「真夏の夜の夢」より
080	アメリカン・パトロール
081	楽しき農夫
082	貴婦人の乗馬
083	ソナタ K.545 第1楽章
084	乙女の祈り
085	小犬のワルツ
086	愛の夢 第3番
087	主よ、人の望みの喜びよ
088	カノン (パッヘルベル)
089	セレナード「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より
090	行進曲「くすみ割り人形」より
091	インヴェンション 第1番
092	プレリュード 第1番 (J.S. バッハ)
093	ソナチネ 作品20の1 第1楽章
094	ユーモレスク (ドヴォルザーク)
095	人形の夢と目覚め
096	亜麻色の髪の乙女
097	アラベスク 第1番 (ドビュッシー)
098	トロイメライ
099	メープル・リーフ・ラグ
100	ノクターン 作品9の2 (ショパン)
脳にキク	
101~150	エクササイズ I / II / III
デモ曲	
151~152	デモ曲
ユーザーソング	
153~162	ユーザー 1 ~ 10

根音 コード の種類	C	C \sharp (D \flat)	D	(D \sharp)/E \flat	E	F	F \sharp (G \flat)	G	(G \sharp)/A \flat	A	(A \sharp)/B \flat	B
M												
m												
dim												
aug												
sus4												
sus2												
7												
m7												
M7												
m7 \sharp 5												
7 \flat 5												
7sus4												
add9												
madd9												
mM7												
dim7												
69												
6												
m6												

•コード入力鍵盤の範囲などの制約により、一部のコードでは上記のとおり指定できない場合があります。

保証・アフターサービスについて

保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています

修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していただき、直らないときには次の処置をしてください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノリペアセンターが修理をさせていただきます。

- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノお客様修理相談センターまでご連絡ください。

● 保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノお客様修理相談センターまでご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

あらかじめご了承ください

- 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただくこと」があります。
また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただくことがあります。
- 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確認させていただくことがあります。
- 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内のカシオテクノリペアセンターにご依頼ください。

アフターサービスなどについておわかりにならないときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノお客様修理相談センターにお問い合わせください。

MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	1 1 ~ 16	1 ~ 16 1 ~ 16	
モード	モード3 × *****	モード3 × *****	
ノート ナンバー	12 ~ 120 *****	0 ~ 127 0 ~ 127*1	
ベロシティ	○ 9nH v = 1 ~ 127 × 9nH v = 0	○ 9nH v = 1 ~ 127 × 9nH v = 0, 8nH v = **	**は関係なし
アフター タッチ	× ×	× ○	
ピッチベンド	× (CTK-4000) ○ (CTK-5000)	○	
0, 32 1 6, 38 7 10 11 64	○ × × (CTK-4000) ○ (CTK-5000)*2 ○ ○ × ○*4	○ (MSBのみ) ○ ○*3 ○ ○ ○ ○	バンクセレクト モジュレーション データエントリー ボリューム パン エクスプレッション ホールド1
コントロール チェンジ			

66 67 91 93 100, 101 120 121	○*4 ○*4 × ○ × (CTK-4000) ○ (CTK-5000) *2 × ○	○ ○ ○ ○ ○*3 ○ ○ ○	ソフトウェア ソフト リバーブセンド コーラスセンド RPN LSB, MSB オールサウンドオフ リセットオールコントロールローラー
プログラムチェンジ 設定可能範囲	○ 0 ~ 127 *** ** * * * * *	○ 0 ~ 127	
エクスクルーシブ	○ *5	○ *6 *7	
ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム クロック コマンド	○ ○	× ×	
その他 ローカル オン/オフ オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× ○ × ×	× ○ ○ ×	
備考	<small> *1: 音色による *2: 送信対応RPN: ピッチベンドセンシティブィティ (CTK-5000のみ) *3: 受信対応RPN: ピッチベンドセンシティブィティ (CTK-5000のみ) *4: アサイナブル端子の試験により異なる *5: 送信するユニバーサルシステムエクスクルーシブメッセージ: マスターフアインチューン、マスターコースチューン、リバーブタイム、コーラスタイム *6: 受信するユニバーサルシステムエクスクルーシブメッセージ: GM システムオン/オフ、GM2 システムオン、マスターボリューム、マスターコースチューン、 リバーブタイム、コーラスタイム、コーラスメジュレーション *7: 本機固有のシステムエクスクルーシブメッセージ 本機の MIDI 仕様の詳細は、MIDI インプレメンテーション (http://casio.jp/support/emil/) をご覧ください。 </small>		

モード1: オムニ・オン、ポリ
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ
モード4: オムニ・オフ、モノ

○ : あり
× : なし



This recycle mark indicates that the packaging conforms to the environmental protection legislation in Germany.

これは、梱包箱がドイツの環境保護法に適合していることを示すリサイクルマークです。

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

☐ MA1003-B Printed in China
CTK4000/5000SKJA1B